

八戸工業高等専門学校	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	開講年度	平成30年度(2018年度)
------------	--------------------------	------	----------------

学科到達目標

環境の保全と再生及び安全・安心で持続的発展が可能な社会を実現するため、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、環境都市デザイン並びに建築デザインとその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造性と研究開発能力をもち、ものづくりを先導できる実践的専門技術者を育成する。

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分		
					専1年				専2年							
					前		後		前		後					
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
一般	必修	総合英語A(5001)	0013	学修単位	2	2									阿部 恵 マシュー・トーマス	
一般	必修	物理学要論(5005)	0016	学修単位	2	2									丹羽 隆裕	
一般	必修	化学要論(5008)	0017	学修単位	2	2									菊地 康昭	
専門	必修	エンジニアリングデザインⅠ(5920)	0001	学修単位	1	1									南 将人	
専門	選択	エンジニアリングデザインⅡ(5923)	0002	学修単位	1			1							南 将人	
専門	必修	環境都市・建築デザインコース実験Ⅰ(9006)	0003	学修単位	3	3									藤原 広和 丸岡 晃	
専門	必修	環境都市・建築デザイン工学演習Ⅰ(9007)	0004	学修単位	1	1									丸岡 晃	
専門	必修	特別研究ⅠA(9889)	0005	学修単位	2	2									藤原 広和 丸岡 晃	
専門	選択	環境都市・建築デザインコース実験Ⅱ(9911)	0006	学修単位	1			1							釜谷 博 森大祐 新井宏忠	
専門	必修	環境都市・建築デザイン工学研修(9912)	0007	学修単位	1			1							藤原 広和 丸岡 晃	
専門	必修	特別研究ⅠB(9913)	0008	学修単位	5			5							藤原 広和 丸岡 晃	
専門	選択	構造解析学特論(9901)	0009	学修単位	2	2									杉田 尚男	
専門	選択	水理学特論(9904)	0010	学修単位	2	2									藤原 広和	
専門	選択	建設材料学特論(9906)	0011	学修単位	2	2									庭瀬 一仁	
専門	選択	地盤工学特論(9908)	0012	学修単位	2	2									清原 雄康	
専門	必修	応用数学A(5201)	0014	学修単位	2			2							馬場 秋雄	
専門	必修	応用数学演習(5203)	0015	学修単位	1	1									鳴海 哲雄	
専門	選択	学外研修Ⅰ(5931)	0018	学修単位	1			1							南 将人	
専門	選択	学外研修Ⅱ(5932)	0019	学修単位	2			2							南 将人	
専門	選択	学外研修Ⅲ(5933)	0020	学修単位	3			3							南 将人	
専門	選択	学外研修Ⅳ(5934)	0021	学修単位	4			4							南 将人	
一般	必修	表現法(5004)	0088	学修単位	1					1					戸山 山みどり	
一般	必修	日本文化史概論(5013)	0089	学修単位	2							2			中村 泰朗	
一般	必修	総合英語B(5002)	0090	学修単位	2					2					菊池 秋夫 マシュー・トーマス	
一般	選択	人文社会科学要論(5106)	0091	学修単位	2					2					高橋 要	
一般	選択	総合英語C(5003)	0092	学修単位	2							2			菊池 秋夫 マシュー・トーマス	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	総合英語A(5001)		
科目基礎情報							
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	Grussendorf, M. 2007. English for Presentations: Student book with Multi-ROM. Oxford: Oxford University Press.						
担当教員	阿部 恵, マシュー トーマス						
目的・到達目標							
高専本科で身に付けた基礎的な読解力とコミュニケーション能力をもとに、パラグラフリーディングとパラグラフライティングを身に付け、プレゼンテーションができることを目的とする。							
ループリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		パラグラフリーディングとパラグラフライティングを身に付け、積極的にショートプレゼンテーションができること。	パラグラフリーディングとパラグラフライティングを身に付け、ショートプレゼンテーションができること。	パラグラフリーディングとパラグラフライティングを身に付け、支援を受けながらショートプレゼンテーションができること。			
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP5							
教育方法等							
概要	英語によるプレゼンテーションの基礎的技法を学び、自分の考えを英語で発信する能力を身につける。授業ではプレゼンテーションの構成、表現、パラグラフライティング等を学び、練習・実践を行う。This class focuses on improving learners' presentation skills including organization, expression, writing, etc. Students are expected to develop presentation skills in English.						
授業の進め方と授業内容・方法	授業は英語で行われるため、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする積極的な態度が望まれる。授業では課題が出されるが、課題以外にもテレビ、ラジオ、インターネットなどをおして、英語を聞いたり読んだりするなど、自習にも努める必要がある。さらに、日常生活でも外国の事情や異文化について理解を深める必要がある。なお、英和・和英辞書は毎時間必ず持参しなければならない。As this class is conducted in English, you need to participate actively in this class. You have assignments every time, but you need to study by yourself using TV, radio, Internet, etc. You also need to understand different cultures. You need to bring dictionaries.						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	Introduction and explanation of class aims.	Understanding class aims and attainment			
		2週	Writing Practice / Presentation Unit 1: Let's get started	Opening and structuring a presentation			
		3週	Writing Practice / Presentation Unit 1: Let's get started	Organization at details (timing, handouts)			
		4週	Writing Practice / Presentation Unit 2: Today's topic is ...	Signposting (phrases to organize presentations)			
		5週	Writing Practice / Presentation Unit 2: Today's topic is ...	Talking about issues, referring to other points			
		6週	Writing Practice / Presentation Unit 3: My next slide shows ...	Introducing visuals, saying numbers			
		7週	Writing Practice / Presentation Unit 3: My next slide shows ...	Emphasising important points, making contrasts			
		8週	Writing Practice / Presentation Unit 4: As you can see from this graph ...	Talking about visuals			
	2ndQ	9週	Writing Practice / Presentation Unit 4: As you can see from this graph ...	Talking about trends			
		10週	Writing Practice / Presentation Unit 5: To sum up...	Summarising the main points			
		11週	Writing Practice / Presentation Unit 5: To sum up...	Making recommendations, effective conclusions			
		12週	Writing Practice / Presentation Unit 6: Any questions?	Dealing with questions			
		13週	Writing Practice / Presentation Unit 6: Any questions?	Anticipating questions			
		14週	Prepare for presentations	Prepare for presentations (advice and suggestions)			
		15週	Presentations	Presentations and feedback			
		16週	Final Exam	Final Exam			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ (課題)	その他	合計
総合評価割合	20	50	0	0	30	0	100

基礎的能力	20	50	0	0	30	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	物理学要論(5005)
科目基礎情報					
科目番号	0016	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	岩波基礎物理シリーズ1「力学・解析力学」 (阿部龍蔵 著, 岩波書店)				
担当教員	丹羽 隆裕				
目的・到達目標					
1. 古典力学の原理の復習と解析力学の成り立ちの理解。 2. 解析力学の手法を力学の問題に適用する方法を学ぶ。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 ニュートンの運動方程式の成立過程の理解。	座標変換の考え方と計算方法の理解。	ベクトル微分方程式としてのニュートンの運動方程式の理解。	座標変換による加速度の表現方法が理解できない。		
評価項目2 ニュートンの運動方程式の一般化。	ニュートンの運動方程式の一般化からラグランジュの運動方程式が導かれる課程を理解できている。	一般化座標、一般化運動量という考え方の理解。	一般化座標、一般化運動量という考え方が理解できていない。		
評価項目3 変分原理、最小作用の原理の理解。	ラグランジュの運動方程式を適用して力学問題を解くことができる。	変分原理の手法を理解できる。	変分原理の考え方が飲み込めない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP1					
教育方法等					
概要	「物理学要論」では、まずニュートン力学の復習を行ない、ついで解析力学を学ぶ。ニュートン力学における変数や座標系の意味を確認し、変分原理等の数学的手法によりニュートン力学が一般化され、より普遍的な力学の体系である解析力学が構築される過程を学ぶ。この解析力学が量子力学の原理に関わっていること、また、ニュートン力学が相対性理論により修正を受けることにも触れる。 この授業では、自然現象を数学で表現する手法に慣れることを目標とする。				
授業の進め方と授業内容・方法	微分積分、微分方程式、フーリエ解析、確率・統計等、物理現象の数学的な表現方法の説明が中心となる。従って、これらの基礎となる数学を十分に復習しておくことが重要となる。				
注意点	ここで扱う物理現象は、可能な限り各専攻に共通する項目を選んでしているので、一見すると専門外の様な話題であっても興味を持って臨んでほしい。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	ニュートン力学の復習 (位置ベクトルと変位ベクトル、座標系と変数)		
		3週	ニュートン力学の復習 (運動方程式、運動量、運動エネルギー)		
		4週	ニュートン力学の復習 (座標軸の変換、直交変換)		
		5週	解析力学 (一般化座標、一般化力、一般化運動量)		
		6週	解析力学 (ラグランジュ方程式)		
		7週	解析力学 (力学系の微小振動)		
		8週	解析力学 (変分原理)		
	2ndQ	9週	解析力学 (ハミルトンの正準方程式)		
		10週	解析力学と量子力学 (ハミルトニアン)		
		11週	相対運動		
		12週	角運動量		
		13週	2体問題		
		14週	剛体の運動		
		15週	期末試験		
		16週			
評価割合					
	試験	課題	合計		
総合評価割合	80	20	100		
基礎的能力	80	20	100		
専門的能力	0	0	0		
分野横断的能力	0	0	0		

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	化学要論(5008)
科目基礎情報					
科目番号	0017		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「化学製品が一番わかる」田島慶三著 (技術評論社)、および教員作成資料				
担当教員	菊地 康昭				
目的・到達目標					
有機化合物についての基本的な性質や反応を理解した上で、身のまわりに存在する色々な有機化合物についての構造や特性を理解すること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	有機化合物についての基本的な性質や反応を知識だけでなく理論も知っている。	有機化合物についての基本的な性質や反応を知識として知っている。	有機化合物についての基本的な性質や反応を知らず、理解もできない。		
評価項目2	身のまわりに存在する色々な有機化合物についての構造と特性を理解している。	身のまわりに存在する色々な有機化合物についての構造を知っている。	身のまわりに存在する色々な有機化合物についての構造や特性を知らない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP1 学習・教育到達度目標 DP3					
教育方法等					
概要	現在、人類が直面している環境や食糧などの種々の問題は科学技術の進歩と関連しており、これらを解決するためには化学が必要である。このため、人間の生活に係わる化学物質・生命に係わる化学物質・環境に係わる化学物質の根本をなす有機化合物を主体として学ぶ。最初は有機化合物の分類や性質について学び、その後、身の回りの化学製品について学ぶ。化学製品は、原料となる基礎化学品、有機化学品、高分子化学品に分かれるが、これらについて学んでいく。 【開講学期】前期週2時間				
授業の進め方と授業内容・方法	身のまわりに存在する色々な化学物質の根本をなす有機化合物の構造や性質、さらには生活を支える化学物質 (基礎化学品、有機化学品、高分子化学品) を学んでいく。 【評価方法】到達度試験 (80点)、小テスト・課題 (20点) を総合して評価し、60点以上を合格とする。				
注意点	これまで学んだ化学に関する知識を基にして授業を進めていくので、必要に応じて化学を復習しておくこと。また、理解度を高めるために小テストや課題にも取り組んでもらう。 自習自習は到達度試験、小テスト、および課題にて評価する				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	有機化合物について、生活を支える化学物質について、日本の化学工業の発展について	有機化合物について、生活を支える化学物質について、日本の化学工業の発展について理解できる	
		2週	有機化合物 (1) 有機化合物の分類と異性体、および命名法 (1)	有機化合物の分類と異性体、および命名法を理解できる	
		3週	有機化合物 (2) 有機化合物の分類と異性体、および命名法 (2)	有機化合物の分類と異性体、および命名法を理解できる	
		4週	有機化合物 (3) アルカン、アルケン、アルキンの構造、アルカンとアルケンの反応	アルカン、アルケン、アルキンの構造、アルカンとアルケンの反応を理解できる	
		5週	有機化合物 (4) アルコールとエーテルの構造と反応	アルコールとエーテルの構造と反応を理解できる	
		6週	有機化合物 (5) アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル構造、反応	アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステルの構造、反応を理解できる	
		7週	有機化合物 (6) 芳香族化合物の名称と構造、反応	芳香族化合物の名称と構造、反応を理解できる	
		8週	中間到達度試験		
	2ndQ	9週	基礎化学品 (1) 石油資源およびバイオ資源からの基礎化学品	石油資源およびバイオ資源からの基礎化学品を理解できる	
		10週	基礎化学品 (2) 無機基礎化学品	無機基礎化学品を理解できる	
		11週	有機化学品 (有機溶剤、界面活性剤、可塑剤)	有機化学品 (有機溶剤、界面活性剤、可塑剤) を理解できる	
		12週	高分子化学品 (1) 樹脂とゴム、繊維について	樹脂とゴム、繊維について理解できる	
		13週	高分子化学品 (2) ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレン、ポリ塩化ビニル、PET、ポリウレタンなど	ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレン、ポリ塩化ビニル、PET、ポリウレタンなどを理解できる	
		14週	高分子化学品 (3) エポキシ樹脂、アクリル樹脂、フッ素樹脂、天然ゴム、合成ゴムなど	エポキシ樹脂、アクリル樹脂、フッ素樹脂、天然ゴム、合成ゴムなどを理解できる	
		15週	期末到達度試験		
		16週	期末到達度試験の答案返却とまとめ		
評価割合					
	試験	課題・小テスト	合計		
総合評価割合	80	20	100		
基礎的能力	80	20	100		

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	エンジニアリングデザイン I (5920)
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	1	
教科書/教材	教員作成用プリント				
担当教員	南 将人				
目的・到達目標					
エンジニアリングデザインとは、「数学・基礎科学から人文社会科学に至る様々な学習成果を集約し、経済・環境・倫理・健康と安全・製造可能性・持続可能性などの現実的な条件の範囲内で、ニーズに合ったシステム、エレメント（コンポーネント）、方法を開発する創造的で、たびたび反復的で、オープンエンドなプロセス」である。本講義では、続く続く演習科目エンジニアリングデザインⅡのテーマ内容とその背景を知り、社会の問題・ニーズに対する工学的対応について理解し解決方法を考察することにより、技術者として必要な考えの習得を目的とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
課題の社会的背景を理解できる	十分に問題点を理解し説明できる	課題の問題点を理解できる	課題の問題点を理解していない		
解決方法を提案できる	十分に解決方法や日程を説明できる	解決方法や日程を説明できる	解決方法を提案できない		
現実的条件に対して検証できる	十分に現実性を検証している。	現実性を検証している	現実性を検証できない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ◎					
教育方法等					
概要	ガイダンスの後、外部講師により様々な分野における課題の社会的背景及び解決に向けた方法の指針を提示する。それらについて、各自で解決方法を考え、様々な現実的条件について考察する。				
授業の進め方と授業内容・方法					
注意点	覚えること以上に、“自ら”考え、選択し、提案し、検証する事が大切である。 考える力の養成のため、すべてのテーマについて十分に考察すること 未知の内容については、積極的に質問したり調べたりすること				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、エンジニアリングデザイン (ED)とは	EDの目的と内容を理解する	
		2週	テーマ説明①	「企業製品開発」、「エネルギー」「国際対応」「地域課題」等を予定しており、そらの必要性と課題を見出す	
		3週	テーマ説明②	第2週と同じ	
		4週	テーマ説明③	第2週と同じ	
		5週	テーマ説明④	第2週と同じ	
		6週	テーマ説明⑤	第2週と同じ	
		7週	プロジェクト・マネジメント (PM)	課題解決のための手段や日程等を設定できず	
		8週	まとめ、エンジニアリングデザインⅡの担当テーマ決定	レポート作成および各テーマの担当を決定する	
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
		レポート	合計		
総合評価割合		100	100		
報告書の内容		100	100		
		0	0		

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	エンジニアリングデザインⅡ (5923)
科目基礎情報					
科目番号	0002	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	1		
教科書/教材	教員作成プリント				
担当教員	南 将人				
目的・到達目標					
エンジニアリングデザインⅠ (EDⅠ)に引き続くこの授業では、Ⅰで提案した地域課題に対する解決方法の実現を通して、国際的にも通用する開発思想をもち、倫理観を持った技術者の養成をを目的とする。具体的には社会的背景のより深い理解のため、関連内容を自ら学習・調査・考察し、チームで目標を達成する能力を養成する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
課題解決のため、自学することができる	十分に解決策を自学し、説明できる	解決策を自学できる	解決策を自学できない		
チーム内での自分の役割を理解し、課題解決に貢献できる	十分にチーム内の役割を理會し、貢献できる	チーム内の役割を理解している	役割を理解できず、チームに貢献できない		
期間内に一定の解決方法を提案・実施できる	十分に期間内に現実的な解決策を提案できる	期間内に解決策を提案できる	解決策を提案できない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ◎					
教育方法等					
概要	前期後半から後期前半にかけて、複数専攻学生によるチーム編成により、担当テーマの解決を行う。外部講師の指導の下、議論を進めながら、期間内での解決を目指す。また、校外での研修により、課題のより深い理解を得る。最終回では、成果をまとめる力とプレゼン能力の養成を目的として成果報告会を開催する。				
授業の進め方と授業内容・方法					
注意点	学外研修（海外長期）との選択になる。 自ら考え、不足している知識や技術を直ぐに習得するように努める。チーム内での自分の役割・ポジションを把握し、積極的に関わる事。外部講師による講義は不定期なため連絡を見逃さない事。また、社会人のマナーを心掛ける事。前年度から引き続いてのテーマもある為、前年の担当者に状況を聞いておくとう理解が深まる。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	チーム別の課題の設定と日程等の検討	問題点を明らかにし、解決方法や日程を設定する	
		2週	外部講師による講義①		
		3週	外部講師による講義②		
		4週	外部講師による講義③		
		5週	外部講師による講義④		
		6週	外部講師による講義⑤		
		7週	校外研修①		
		8週	校外研修②		
	4thQ	9週	校外研修③		
		10週	校外研修④		
		11週	校外研修⑤		
		12週	解決策のとりまとめ①		
		13週	解決策のとりまとめ②		
		14週	報告会用資料の作成とプレゼンの準備		
		15週	成果報告会		
		16週			
評価割合					
	取り組み状況	発表	レポート	合計	
総合評価割合	40	40	20	100	
基礎的能力	40	40	20	100	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	環境都市・建築デザインコース 実験 I (9006)
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	3	
教科書/教材	担当教員から指示がある。				
担当教員	藤原 広和,丸岡 晃				
目的・到達目標					
具体的な現象を前にして基礎理論について再考し、その内容を身につけると同時に結果を説得力のある文章で報告できるようになる事。自専攻だけでなく、他分野の基礎的な知識と計測・実験技術を習得する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP2 学習・教育到達度目標 DP3 学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	建設環境工学の主要分野の専門知識・技術を体験・習得し、応用・展開する能力の素養を身に付ける。また、継続的・自律的に学習できる生涯自己学習能力の養成を行い、種々の科学・技術・情報を利用して社会の要請を解決する為の能力を養成する。与えられた制約下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身に付ける。 建設環境工学における様々な現象を、体験学習を通して理解する事が、この科目の目標である。実験を通じて計画能力・計画に従い実施する能力・現象を理解する能力・自分の考えを伝達する能力の素養を習得する。				
授業の進め方と授業内容・方法	実験担当教員はオムニバス方式により各教員が担当する。構造関係(杉田、丸岡)、水工関係(藤原)、地盤関係(清原)、環境関係(矢口)の土木工学の様々な分野の実験を行う。各実験において計画・測定・解析・まとめを教員の指導のもとで行う。 評価方法: 教員が、実験の目的を理解し、内容を把握できているか、自分の考えを的確に説明できているか等を報告書や口頭試問によって100点満点で総合的に評価する。 総合評価は100点満点として、60点以上を合格とする。				
注意点	各担当教員から実験についての説明があるので、別途指示される書式を満足した報告書が提出期限内に提出されなければならない。やむを得ない事情により欠席した場合は担当教員の指示を受ける事。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	活性汚泥法の諸特性の測定(矢口)(27時間)		
		2週	G N S S測量-スタティック測定とR T K測定-(藤原)(27時間)		
		3週	構造物まわりの流れの数値解析(丸岡)(27時間)		
		4週	構造物の数値解析(杉田)(27時間)		
		5週	地盤環境調査技術の習得(清原)(27時間)		
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
			レポート・口頭試問	合計	
総合評価割合			100	100	
基礎的能力			0	0	
専門的能力			100	100	
分野横断的能力			0	0	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	環境都市・建築デザイン工学 演習 I (9007)
科目基礎情報					
科目番号	0004	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザイン コース	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	1		
教科書/教材	教員作成教材・プリントおよび本科で使用した構造力学および水理学の教科書				
担当教員	丸岡 晃				
目的・到達目標					
各分野の理論・概念を理解し、それを実践する具体的手法の習得を目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
構造系分野の演習	本授業の演習問題を8割程度以上何も見ずに解答できる。	本授業の演習問題を6割程度以上何も見ずに解答できる。	本授業の演習問題を見ないで解けるのは6割り程度以下である。		
水工系分野の演習	本授業の演習問題を8割り程度以上何も見ずに解答できる。	本授業の演習問題を6割程度以上何も見ずに解答できる。	本授業の演習問題を見ないで解けるのは6割り程度以下である。		
不静定構造の解析	良のレベルに加え、それぞれの計算結果に対して正しく考察を加えられる。	ソフトウェアおよび手計算によって正しく計算できる。	ソフトウェアまたは手計算によって正しく計算できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP3					
教育方法等					
概要	【前期週2時間】 構造系および水工系分野に関する演習をゼミナール方式で行う。本科で学んだ専門分野に関する演習と専攻科において必要とされる各専門分野の演習を行い、環境都市・建築デザインコースにおける基礎学力を身につけ、それらの応用力を養うことを目的とする。				
授業の進め方と授業内容・方法	構造系分野 (計8回) および水工系分野 (計5回) における主に国家公務員試験・地方公務員試験で取り上げられた問題に関する演習を行う。さらに、構造系分野では、構造解析ソフトウェアによる不静定構造の解析についても扱う。演習課題の実施状況と確認テスト91% (13回×7%)、構造解析ソフトウェアによる不静定構造についてのレポート9%の割合で評価する。総合評価は100点満点として、60点以上を合格とする。演習課題、確認テスト、レポートは、採点后返却し、到達度を確認させる。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> 本科で使用した対応する分野の教科書、ノートを復習のために用意すること。 A4ファイルを用意し、授業で配布するプリント、演習問題等全てをファイリングして残しておくこと。 演習問題やレポートの一部は自主学習によって実施し、自主学習の成果は、確認テストおよびレポートにて評価する。 				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	構造系分野に関する演習 梁の断面力に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		2週	トラス構造に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		3週	影響線に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		4週	断面特性に関する問題および軸力を受ける部材の応力に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		5週	曲げや軸力と曲げを受ける部材の応力に関する問題 および温度応力に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		6週	座屈に関する問題および静定構造のたわみに関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		7週	エネルギー原理や不静定構造のたわみに関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		8週	コンクリート構造や鋼構造に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
	2ndQ	9週	構造解析ソフトウェアによる不静定構造	ソフトウェアの使い方を理解し、たわみ角法の理論を復習し理解する。	
		10週	水工系分野に関する演習 静水や浮力に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		11週	管路に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		12週	開水路に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		13週	トリチェリの定理や運動量保存則に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		14週	水工系分野の基本原理に関する問題	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		15週	演習課題の確認テストおよび答案返却とまとめ	与えられた問題の理論を復習し、解き方を理解する。	
		16週			
評価割合					
		演習課題の実施状況と確認テスト	レポート	合計	
総合評価割合		91	9	100	
基礎的能力		10	0	10	
専門的能力		81	9	90	
分野横断的能力		0	0	0	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	特別研究 I A (9889)
科目基礎情報					
科目番号	0005	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	指導教員の指示による				
担当教員	藤原 広和,丸岡 晃				
目的・到達目標					
自主的・継続的な学習能力の習得。 研究課題を的確にとらえ、研究を計画的に遂行し、結果を解析し考察する能力の習得。 研究成果をまとめ、論文として記述し、発表する能力の習得。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP1 学習・教育到達度目標 DP2 学習・教育到達度目標 DP3 学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	専攻分野（構造解析学、構造工学、海岸工学、水理学、地域計画学、建設材料学、水環境工学、地盤工学、建築学など）における特定の研究課題について指導教員の下で個々に研究し、専門知識の総合化と深化を図りつつ課題解決に向けて理論的、かつ、実践的に取組み、解決する能力と独創性を育成する。				
授業の進め方と授業内容・方法	構造解析学、構造工学、海岸工学、水理学、地域計画学、建設材料学、水環境工学、地盤工学などの各専攻分野について指導教員が提示した研究テーマなどから各自が研究対象を選び、各専門分野の研究を行う。指導教員などと議論しながら、文献調査、実験・実測、数値シミュレーションなどの適切な手法を用い、何らかの結論を明らかにし、論文としてまとめて提出し、その発表を行う。 評価方法：平素の研究状況（計画性、継続性、理解度、創意工夫、学会発表など）と発表資料（構成、内容、完成度など）（計70%）と研究発表（プレゼンテーション用資料、発表技術、分かり易さ、理解度など）（計30%）に基づき評価する。平素の研究状況については担当教員が評価する。発表資料については担当教員と副査教員が評価する。研究発表については所属する専攻の教員が評価する。以上を総合して、100点満点で60点以上を合格とする。日常の指導を通して、到達度を確保させる。なお、評価は特別研究 I Bと同時期に行う。				
注意点	技術開発能力、研究遂行能力および発表能力の修得に、留意すること。 特別研究は2年間通して行われるが（I A、I B）、その間に中間発表2回（I B、II）、最終発表1回（II）の合計3回の発表会を行う。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	指導教員の決定後、各指導教員の元で進める。研究テーマは2週～10週の通りである。		
		2週	水環境の保全と有機性廃棄物の有効利用に関する研究（矢口）		
		3週	浅海域の波浪変形と海岸保全工法（南）		
		4週	海・湖・河川における物質の移動と混合特性（藤原）		
		5週	風工学における数値流体解析の適用（丸岡）		
		6週	計算力学への知識工学の利用（杉田）		
		7週	地盤中の物質移動に関する研究（清原）		
		8週	セメント系材料の高機能化に関する研究（庭瀬）		
	2ndQ	9週	建築に関連する研究（馬渡）		
		10週	建築に関連する研究（金）		
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
		平素の研究状況（計画性、継続性、理解度、創意工夫、学会発表など）と発表資料（構成、内容、完成度など）	研究発表（プレゼンテーション用資料、発表技術、分かり易さ、理解度など）	合計	
総合評価割合	70	30	100		
基礎的能力	0	0	0		
専門的能力	70	30	100		
分野横断的能力	0	0	0		

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	環境都市・建築デザインコース 実験Ⅱ(9911)	
科目基礎情報							
科目番号	0006		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	1			
教科書/教材	教員作成資料						
担当教員	釜谷 博行, 森 大祐, 新井 宏忠						
目的・到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP2 学習・教育到達度目標 DP3 学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○							
教育方法等							
概要							
授業の進め方と授業内容・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容・方法			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	環境都市・建築デザイン工学 研修(9912)
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザイン コース		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	1	
教科書/教材	導教員の指示がある。				
担当教員	藤原 広和,丸岡 晃				
目的・到達目標					
技術者や研究者としての基礎的な能力を養うものである。各専門分野の情報収集や英文論文などの読解を目的とし、講読した論文の中から研究に必要な知識も得られるようになるのが目標である。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	選択した研究テーマ（構造解析学、構造工学、水理学、海岸工学、地域計画学、建設材料学、水環境工学、地盤工学、建築学など）に関する外国雑誌および外国語の論文の講読を行うとともに特許情報等を検索して、研究に当たって必要な情報収集や英文論文などの読解や説明の方法を学ぶ。また、特別研究に必要な知識も得る。				
授業の進め方と授業内容・方法	指導教員が提示した研究テーマ等から各自が研究対象を選び、各専門分野について外国語論文等の購読を行う。指導教員や研究室のスタッフと議論しながら、特別研究に関連した文献特許調査・講読を行う。 評価方法：調査研究内容を元に総合的に評価を行う。総合評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。				
注意点	クラス分けをして行うが、特別研究と関連のある指導教員のもとで行うのが望ましい。英和辞典は必携である。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	指導教員と検討しながら進める。各テーマは2～10週の通りである。		
		2週	生物学的排水処理に関する調査研究（矢口）		
		3週	沿岸域における波浪変形に関する調査研究（南）		
		4週	河口域の塩水混合に関する調査研究（藤原）		
		5週	数値流体解析に関する調査研究（丸岡）		
		6週	構造工学における計算力学の基礎と応用（杉田）		
		7週	地盤中の物質移動のメカニズム（清原）		
		8週	セメント系材料の高機能化に関する研究（庭瀬）		
	4thQ	9週	建築に関連する調査研究（馬渡）		
		10週	建築に関連する調査研究（金）		
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
		調査研究内容		合計	
総合評価割合		100		100	
基礎的能力		0		0	
専門的能力		100		100	
分野横断的能力		0		0	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	特別研究 I B (9913)
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 5	
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	5	
教科書/教材	指導教員の指示による				
担当教員	藤原 広和,丸岡 晃				
目的・到達目標					
自主的・継続的な学習能力の習得。 研究課題を的確にとらえ、研究を計画的に遂行し、結果を解析し考察する能力の習得。 研究成果をまとめ、論文として記述し、発表する能力の習得。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP1 学習・教育到達度目標 DP2 学習・教育到達度目標 DP3 学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	専攻分野（構造解析学、構造工学、海岸工学、水理学、地域計画学、建設材料学、水環境工学、地盤工学、建築学など）における特定の研究課題について指導教員の下で個々に研究し、専門知識の総合化と深化を図りつつ課題解決に向けて理論的、かつ、実践的に取組み、解決する能力と独創性を育成する。				
授業の進め方と授業内容・方法	構造解析学、構造工学、海岸工学、水理学、地域計画学、建設材料学、水環境工学、地盤工学などの各専攻分野について指導教員が提示した研究テーマなどから各自が研究対象を選び、各専門分野の研究を行う。指導教員などと議論しながら、文献調査、実験・実測、数値シミュレーションなどの適切な手法を用い、何らかの結論を明らかにし、論文としてまとめて提出し、その発表を行う。 評価方法：平素の研究状況（計画性、継続性、理解度、創意工夫、学会発表など）と発表資料（構成、内容、完成度など）（計70%）と研究発表（プレゼンテーション用資料、発表技術、分かり易さ、理解度など）（計30%）に基づき評価する。平素の研究状況については担当教員が評価する。発表資料については担当教員と副査教員が評価する。研究発表については所属する専攻の教員が評価する。以上を総合して、100点満点で60点以上を合格とする。日常の指導を通して、到達度を確認させる。				
注意点	技術開発能力、研究遂行能力および発表能力の修得に、留意すること。 特別研究は2年間通して行われるが（I A、I B）、その間に中間発表2回（I B、II）、最終発表1回（II）の合計3回の発表会を行う。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	指導教員の決定後、各指導教員の元で進める。研究テーマは2週～10週の通りである。		
		2週	水環境の保全と有機性廃棄物の有効利用に関する研究（矢口）		
		3週	浅海域の波浪変形と海岸保全工法（南）		
		4週	海・湖・河川における物質の移動と混合特性（藤原）		
		5週	風工学における数値流体解析の適用（丸岡）		
		6週	計算力学への知識工学の利用（杉田）		
		7週	地盤中の物質移動に関する研究（清原）		
		8週	セメント系材料の高機能化に関する研究（庭瀬）		
	4thQ	9週	建築に関連する研究（馬渡）		
		10週	建築に関連する研究（金）		
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
		平素の研究状況（計画性、継続性、理解度、創意工夫、学会発表など）と発表資料（構成、内容、完成度など）	研究発表（プレゼンテーション用資料、発表技術、分かり易さ、理解度など）	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		0	0	0	
専門的能力		70	30	100	
分野横断的能力		0	0	0	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	構造解析学特論(9901)		
科目基礎情報							
科目番号	0009		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	構造工学(第4版) 宮本裕・杉田尚男他 ISBN: 技報堂出版 4月発行予定						
担当教員	杉田 尚男						
目的・到達目標							
<p>主要な公式についてその根拠を理解すること、基本的な公式は暗記すること、公式を適用して数値計算ができること、数値計算の結果を図示できること、得られた結果について正しいかどうか判断できること、実際の構造物の設計にどのように応用できるか理解できることが到達目標である。演習の理解度と定期試験の結果で到達度を計ってもらいたい。具体的には次に示すとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.力学諸量の定義についてその数学的背景を理解し、応用することができる。 2.基礎的なエネルギー法を概念を理解し、それらを用いて不静定構造物を解く能力をつける。 3.マトリクス変位法による骨組解析理論の基礎を理解し解析ができる。 							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		たわみ角法により、構造物の固有振動を求めることができる。	一般化したたわみ角公式と節点方程式・層方程式を適用できる。	一般化したたわみ角法の公式を適用できない。			
評価項目2		弾性荷重法による梁のたわみを算定できる。	梁の変形(たわみ)を求める関係基礎微分方程式を理解し、たわみを求めることができる。	梁の変形(たわみ)を求める関係基礎微分方程式を理解し、たわみを求めることができない。			
評価項目3		マトリクス変位法による骨組解析理論の基礎を理解し解析ができる。	トラス部材の剛性マトリクスを理解して実際に作成できること。	トラス部材の剛性マトリクスを作成できない。			
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP3							
教育方法等							
概要	構造力学においては、構造物に作用する力と変形の関係を定量的に論ずるために各種の数学的手法が用いられることになるが、それらの手法により構造力学は2種類に分類される。一つは、静力学として問題を解く図式的力学、他は力学的原理に基づき構造物の平衡状態及び変形状態を数学的に表現し、それを純解析的手法あるいは、数値的解析手法により解析する方法である。この講義では、数値的解析手法を用いて構造系の力学的挙動についてその背景を理解し、応用することを目標とする。						
授業の進め方と授業内容・方法	2次元や3次元的な広がりをもつ材料空間におけるひずみや応力の数学的取り扱い方、ひずみと応力をむすびつけるための一般化されたHookの法則、2次元問題の解析例などが主な内容である。						
注意点	主要な公式についてその根拠を理解すること、基本的な公式は暗記すること、公式を適用して数値計算ができること、得られた結果について正しいかどうか判断できること、実際の構造物の設計にどのように応用できるか、などに留意して履修することが必要である。						
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	はりの変形(1)曲げモーメントによるたわみの基本式の誘導とその解法	有限変形理論、エラスティカ問題について理解できる。			
		2週	はりの変形(2)モールの定理とその解法	微小変形理論、はり理論を理解できる。			
		3週	圧縮部材の解析(1)圧縮部材の破壊形態と短柱の断面の核	短柱と長柱の挙動、Eulerの座屈荷重、破壊形態と短柱の断面の核を求めることができる。			
		4週	圧縮部材の解析(2)長柱の弾性座屈	座屈、座屈荷重、座屈理論と耐荷力曲線の関係を理解し、柱の設計ができる。			
		5週	構造解析における基本原理(1)重ね合わせの原理と影響線の利用	重ね合わせの原理と影響線を理解できる。			
		6週	構造解析における基本原理(2)外力仕事とひずみエネルギー	バネ、軸力、曲げモーメントのひずみエネルギーを求める。			
		7週	構造解析における基本原理(3)仮想仕事の原理とエネルギー極小の原理	単位荷重の定理を用いて、はりに生ずる任意点のたわみ、たわみ角を求める。			
		8週	構造解析における基本原理(4)単位荷重法	最小の原理とカスティリアーノの定理からはりに生ずるたわみ、たわみ角を求める。			
	2ndQ	9週	構造解析における基本原理(5)相反作用の原理	ベッティの相反作用の定理、マクスウェルの相反作用の原理、ミューラー・ブレスラウの定理			
		10週	たわみ角法による平面ラーメンの解析	たわみ角法を用いて構造物の固有振動数をもとめる。			
		11週	マトリクス構造解析法概要	マトリクス構造解析法概要			
		12週	マトリクス構造解析法	トラス要素の剛性マトリクス、変位と力の変換マトリクス			
		13週	マトリクス構造解析法	トラス要素の剛性マトリクス、変位と力の変換マトリクス			
		14週	マトリクス構造解析法	要素剛性マトリクスの変換、構造剛性方程式の作成、トラス			
		15週	マトリクス構造解析法	要素剛性マトリクスの変換、構造剛性方程式の作成、トラス			
		16週	到達度試験及びその解説	講義内容に関する試験を実施する			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100

基礎的能力	50	0	0	0	0	10	60
專門的能力	20	0	0	0	0	5	25
分野横断的能力	10	0	0	0	0	5	15

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	水理学特論(9904)		
科目基礎情報							
科目番号	0010		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教員作成プリント						
担当教員	藤原 広和						
目的・到達目標							
用語を理解し説明できること。 物体表面付近の流れについて理解できること。 流れの中に置かれた物体が受ける力を計算できること。 水の振動現象の分類と定義について理解できること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	物体表面付近の流れについて理解し説明できること。		物体表面付近の流れについて概ね理解できること。		物体表面付近の流れについて理解できない。		
評価項目2	流れの中に置かれた物体が受ける力を理解し計算できること。		流れの中に置かれた物体が受ける力を計算できること。		流れの中に置かれた物体が受ける力を計算できない。		
評価項目3	水の振動現象の分類と定義について理解できること。		水の振動現象の分類と定義について概ね理解できること。		水の振動現象の分類と定義について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP3							
教育方法等							
概要	水理学は、構造力学、地盤工学とともに土木工学の主要な力学体系の一角を形成している基礎的な分野であり、比較的古くからの学問である。本科3、4年では水理学を学んでいる。これらを基礎に建設技術者が現実の問題に密接に関わると思われる流れの中の固体に働く力および水の振動現象について講義し、水理学の応用的知識を習得・養成する。ここでは、流れの中の固体に働く力を考察できる素養を養うとともに水の振動現象についての数学的取り扱いについて理解することが目標となる。						
授業の進め方と授業内容・方法	本科3、4年生で学んだ水理学の内容(静水力学、常流と射流、層流と乱流、管路内の流れ、開水路の流れ等)を基礎に流れの中の固体に働く力と水の振動現象について学ぶ。						
注意点	授業中、例題、演習問題等を解いてもらうことがあるので、関数電卓は必携である。演習は項目毎に8回程度行うので、その都度各自で到達度を確認し、自己学習に役立てて欲しい。平素の学習状況を把握するため、適宜ノートを提出してもらうことがある。						
授業計画							
		週	授業内容・方法		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	流れの中の固体に働く力 固体表面付近の流れの状態		流れの中の固体に働く力、固体表面付近の流れの状態を理解できる		
		2週	流れの中の固体に働く力 流れの中に置かれた固体が受ける力		流れの中に置かれた固体が受ける力を理解できる		
		3週	(1) 抗力 層流境界層		層流境界層について理解できる		
		4週	(1) 抗力 乱流境界層その1		乱流境界層について理解できる		
		5週	(1) 抗力 乱流境界層その2		乱流境界層について理解し説明できる		
		6週	(1) 抗力 層流境界層と乱流境界層のまとめ		層流境界層と乱流境界層について理解し説明できる		
		7週	演習問題		層流境界層と乱流境界層に関する計算を理解できる		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	中間試験の解説、(2) 揚力		揚力について理解できる		
		10週	水の振動現象 波 (1) 水面の上下運動 (2) 微小振幅の波 (a) 基礎方程式その1		水面の上下運動、微小振幅波について理解できる		
		11週	水の振動現象 波 (1) 水面の上下運動 (2) 微小振幅の波 (a) 基礎方程式その2		微小振幅波の基礎方程式について理解できる		
		12週	水の振動現象 波 (2) 微小振幅の波 (b) 速度ポテンシャルの解		速度ポテンシャルの解を理解できる		
		13週	水の振動現象 波 (3) 波による水粒子の運動		波による水粒子の運動について理解できる		
		14週	水の振動現象 波 (4) 波のエネルギーと水中圧力		波のエネルギーと水中圧力について理解し計算できる		
		15週	期末試験				
		16週	期末試験の答案返却とまとめ				
評価割合							
	試験	演習・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	建設材料学特論(9906)		
科目基礎情報							
科目番号	0011		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教員作成教材・プリント						
担当教員	庭瀬 一仁						
目的・到達目標							
コンクリート材料の微細構造に関する知識を深め、ミクロからマクロまでのつながりについて考察ができるようにする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		コンクリートの種類と特徴について材料設計の観点から説明でき、さらに応用できる。	コンクリートの種類と特徴について材料設計の観点から説明できる。	コンクリートの種類と特徴について材料設計の観点から説明できない。			
評価項目2		コンクリートの耐久性や力学特性について説明でき、さらに応用できる。	コンクリートの耐久性や力学特性について説明できる。	コンクリートの耐久性や力学特性について説明できない。			
評価項目3		コンクリートの特性をよく理解し、将来への課題を英語で説明できる。	コンクリートの特性をよく理解し、将来への課題を説明できる。	コンクリートの特性をよく理解し、将来への課題を説明できない。			
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP3 地域志向 ○							
教育方法等							
概要	社会基盤を整備する建設材料の1つであるコンクリートについて理解を深める事、コンクリートのミクロからマクロまでの知識を深める。						
授業の進め方と授業内容・方法	授業を進めるにあたっては教官作成の和文・英文のプリントを事前に配布しますので、予習・復習はもちろんのこと、課題に対するレポート作成や演習問題を行いながら、コンクリート工学に対する知識を高めるようにする。コンクリート構造物の耐久性について、コンクリートの微視構造からマクロ的な問題を取り上げ、地域特性も考慮した内容で授業を進める。各自に課題を与えてレポートを提出させる。						
注意点	授業の最初に目次を作成するので、ノート(A4版)を用意する。講義が修了すればノートが一つの冊子となるように進めていくので、教員作製プリントや演習問題を糊付するなど、各自工夫してノートをとるようにする。ノートの内容は成績評価の対象となりますので課題に対する報告なども記載するようにする。						
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	シラバスによる授業の進め方と技術者倫理	技術者倫理について理解する。			
		2週	セメントの種類と成分	セメントの種類と成分について理解する。			
		3週	コンクリートの種類と特徴	コンクリートの種類と特徴について理解する。			
		4週	コンクリートの耐久性(1)	コンクリートの耐久性について理解する。			
		5週	コンクリートの耐久性(2)	同上			
		6週	コンクリートの配合および強度	コンクリートの配合および強度について理解する。			
		7週	中間試験				
		8週	セメント種類による強度発現についての概要資料作成、英語表現(1)	コンクリートの耐久性に関する内容を小論文にまとめ英語で発表する。			
	2ndQ	9週	PPT資料作成(1)、英語表現(2)	同上			
		10週	PPT資料作成(2)、英語表現(3)	同上			
		11週	日本語発表(1)、英語表現(4)	同上			
		12週	日本語発表(2)、英語表現(5)	同上			
		13週	英語PPT資料作成(1)、英語表現(6)	同上			
		14週	英語PPT資料作成(2)、英語表現(7)	同上			
		15週	英語発表	同上			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	70	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	70	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	地盤工学特論(9908)		
科目基礎情報							
科目番号	0012	科目区分	専門 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専1				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材							
担当教員	清原 雄康						
目的・到達目標							
地盤中の一次元飽和浸透や変形挙動についての支配方程式を導出し、重み付き残差法による解を求め、厳密解と比較する。有限要素法の一般的な解法の流れを把握する。塑性ひずみの概念を理解し、増分法によりお、カムクレイモデルを降伏関数とする塑性ひずみの計算ができること。山留め壁の支保工部材の設計計算ができること。地盤に関する諸問題に対する対策工、その特徴を習得する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	地盤の荷重作用時の変形や、地下水の流れを式で表現でき、厳密解、重み付き残差法による解が求められる。有限要素法の計算アルゴリズムを理解出来る。	地盤の荷重作用時の変形や、地下水の流れを式で表現でき、境界条件のもと厳密解、重み付き残差法による解が求められる。	定式化、微分方程式の解を求める計算が出来ない。				
評価項目2	地盤対策工の種類と特徴が分かり、専門文献から適用例を理解出来る。	地盤対策工の種類と特徴が分かる。	地盤対策工の種類と特徴が分からない。				
評価項目3	山留め壁の支保工の部材設計が出来る。	山留め壁の土圧分布、根入れ長さの計算が出来る。	粘着力を含んだ地盤の土圧計算が出来ない。				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP3 地域志向 ○							
教育方法等							
概要	本科の地盤工学の授業を基礎として、地盤中の浸透挙動や荷重作用時の地盤の変形挙動に関する理解を深め、斜面崩壊や建物の沈下、汚染物質の漏洩など様々な被害を予見し、適切な対策を施せる素養を身につける。建設現場で仮設でよく用いられる土留め壁の設計計算法についても説明をする。						
授業の進め方と授業内容・方法	浸透・変形挙動に関する有限要素法 (FEM) 定式化や弾塑性力学の基礎を学ぶとともに、弾塑性変形に関して、せん断挙動と圧密挙動を同一観点から説明できるカムクレイモデルについて、土粒子の滑動、有効応力の変化等をふまえて説明する。さらに実規模での設計、検討例を説明する。						
注意点	変形挙動に関しては、連続体力学の基礎から説明を行う。微分積分の知識が必要である。EXCELを用いたシミュレーションを行う予定。土留め壁設計では構造力学の知識も必要である。						
授業計画							
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	浸透水の微小要素での非定常連続式、ダルシーの法則 1次元浸透問題におけるFEM定式化と解析 (重み付け基礎方程式の部分積分、形状関数の微分、行列化)。	材料の力学的性質及び物理的性質を説明できる。			
		2週	微小要素での力の釣合い方程式。				
		3週	ひずみと変位の関係、応力とひずみの関係 (フックの法則)、1次元弾性変形問題 (厳密解)。				
		4週	1次元弾性変形問題における2次の試行関数を用いたFEM定式化と解析、厳密解との比較。一般的な定式化の流れ。				
		5週	1次元弾性変形問題における2次の試行関数を用いたFEM定式化と解析、厳密解との比較。一般的な定式化の流れ。				
		6週	土や金属の破壊基準、降伏条件、降伏関数。	土の破壊基準を理解している。			
		7週	応力空間・限界状態、塑性ひずみ増分に関する仮定。	土・粘性土のせん断特性について考察できる。4土の破壊基準について考察できる			
		8週	カムクレイモデル降伏関数の決定。				
	2ndQ	9週	弾性ひずみ増分の決定、弾性係数と圧密における膨張指数との関係。				
		10週	関連流れ則、塑性ひずみ増分の決定。				
		11週	排水及び非排水三軸試験のシミュレーション。	土・粘性土のせん断特性について考察できる。4土の破壊基準について考察できる			
		12週	土留め壁の設計、FEM解析による土留め壁と周辺地盤の変形計算例紹介。	ランキン土圧やクーロン土圧を理解している。			
		13週	補強土工法、地盤改良工法。				
		14週	補強土工法、地盤改良工法。				
		15週	期末試験				
		16週	期末試験の答案返却とまとめ				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	90	0	0	0	0	10	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	応用数学 A (5201)		
科目基礎情報							
科目番号	0014		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	フーリエ解析と偏微分方程式、E. クライツィグ、培風館						
担当教員	馬場 秋雄						
目的・到達目標							
講義にあらわれる様々な偏微分方程式を解くことができるようになること。具体的には、教科書の問題と同レベルのものを解けるようになることである。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
偏微分方程式	講義にあらわれる様々な偏微分方程式を解くことができるようになること。具体的には、教科書の問題と同レベルのものを確実に解けるようになることである。		講義にあらわれる様々な偏微分方程式を解くことができるようになること。具体的には、教科書の問題と同レベルのものを解けるようになることである。		講義にあらわれる様々な偏微分方程式を解くことができるようになること。具体的には、教科書の問題と同レベルのものをヒントを与えられて解けるようになることである。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP2							
教育方法等							
概要	本科で学んできた常微分方程式および、微分積分学の知識をもとに、1階と2階の偏微分方程式を中心にその解き方について学ぶ。特に、2階線形偏微分方程式についての基本的な性質を理解できるようになることを目標とする。						
授業の進め方と授業内容・方法	1回の授業のなかでほとんどの時間はその回のテーマについて講義形式で説明をする。その後、演習の時間をとる。質問がある場合はこの時間を利用してほしい。最後に演習の解答とその解説を行う。例題等で各概念の使われ方を紹介すると共に、時間の許す限り実際に解いて運用能力を養うことに重点を置く。到達度試験80%、小テスト・演習など20%として評価を行い、総合評価は100点満点として、60点以上を合格とする。答えは採点后返却し、達成度を伝える。						
注意点	微分積分、線形代数に精通していることを要求する。また、初歩の常微分方程式を理解しているものとして授業を進める。授業中にも演習の時間をとるが、それだけでは足りないと考えられるので、その分については自習が必要である。理解が浅い場合は復習の時間を増やし問題を数多く解き、担当教員の教員室を訪れて遠慮なく質問すること。自学自習は到達度試験似て評価する。						
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	三角関数、三角関数の重ね合わせ	三角関数、三角関数の重ね合わせを理解する			
		2週	フーリエ展開	フーリエ展開について理解する			
		3週	フーリエ級数の収束性	フーリエ級数の収束性について理解する			
		4週	ベッセルの不等式とパーセバルの等式	ベッセルの不等式とパーセバルの等式について理解する			
		5週	偏微分方程式の基本概念、変数分離	偏微分方程式の基本概念、変数分離について理解する			
		6週	波動方程式	フーリエ級数を用いて波動方程式の解を求めることが出来る			
		7週	熱伝導方程式	フーリエ級数を用いて熱伝導方程式の解を求めることが出来る			
		8週	期末試験				
	4thQ	9週	期末試験の答案返却とまとめ				
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	90	0	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	応用数学演習(5203)			
科目基礎情報								
科目番号	0015		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1				
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1				
開設期	前期		週時間数	1				
教科書/教材	工科系 線形代数 [新訂版] 筧 三郎 著 (数理工学社)							
担当教員	鳴海 哲雄							
目的・到達目標								
線形(ベクトル)空間、線形写像(変換)、固有値・固有ベクトル、対角化、ジョルダン標準形。各項目での用語の定義とその概要(計算方法)が理解できることが目標となる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	換)。各項目での用語の定義とその概要(計算方法)が正確に理解できること		線形(ベクトル)空間、線形写像(変換)。各項目での用語の定義とその概要(計算方法)が理解できること		換)。各項目での用語の定義とその概要(計算方法)が理解できない			
評価項目2	固有値・固有ベクトル。各項目での用語の定義とその応用(計算方法)が理解できること		固有値・固有ベクトル。各項目での用語の定義とその概要(計算方法)が理解できること		固有値・固有ベクトル。各項目での用語の定義とその概要(計算方法)が理解できない			
評価項目3	対角化、ジョルダン標準形。各項目での用語の定義を理解できること		対角化、ジョルダン標準形。各項目での用語の定義とその概要(計算方法)が理解できること		対角化、ジョルダン標準形。各項目での用語の定義とその概要(計算方法)が理解できない			
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育到達度目標 DP2								
教育方法等								
概要	本科での線形代数をもとに、さらに理工系学生として必要な数学的能力を習得して、現在専攻している応用分野に十分活用できるように、例題・演習問題を解答して計算力をつけ、理論の内容を納得することが目標である。							
授業の進め方と授業内容・方法	本科での内容についても復習をするが、細部については各自のレベルで復習を十分にしてほしい。授業では、用語と基本定理の説明・証明をし、教科書の例題の解法を解説していく。多くの定理の証明は省かざるを得ないが、できるかぎり活用例で補っていく。							
注意点	授業で解説した例題の後に続く問題を必ず自分で解決して、内容の理解に努めてほしい。ポイントとなる箇所では、達成度確認のために課題を課すので確実に提出すること。疑問点については、オフィスアワーも活用すること。							
授業計画								
前期	1stQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	1章 行列とベクトル			基本事項を理解する		
		2週	2章 連立1次方程式の解法(ガウス・ザイデル法も紹介)(1)			基本事項を理解する		
		3週	2章 連立1次方程式の解法(ガウス・ザイデル法も紹介)(2)			基本事項を理解する		
		4週	3章行列式(本科2年次の復習)(1)			基本事項を理解する		
		5週	3章行列式(本科2年次の復習)(2)			基本事項を理解する		
		6週	4章 線形空間(1)			基本事項を理解する		
		7週	4章 線形空間(2)			基本事項を理解する		
	8週	中間試験						
	2ndQ	9週	5章 線形写像(1)			基本事項を理解する		
		10週	5章 線形写像(2)			基本事項を理解する		
		11週	6章 固有値・固有ベクトル(1)			基本事項を理解する		
		12週	6章 固有値・固有ベクトル(2)			基本事項を理解する		
		13週	6章 固有値・固有ベクトル(3)			基本事項を理解する		
		14週	6章 固有値・固有ベクトル(4)			基本事項を理解する		
		15週	期末試験					
16週		期末試験の答案返却						
評価割合								
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	90	10	0	0	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	90	10	0	0	0	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	学外研修 I (5931)
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	1	
教科書/教材					
担当教員	南 将人				
目的・到達目標					
<p>本科目の達成目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的・技術的感覚を養うこと。 ・技術に対する社会的要請を知り、技術に対する問題意識を養うこと。 ・社会的見地から特別研究の意義と目的を認識し、研究の遂行に役立てること。 ・組織の中で働くことにより、確かな職業観を自己の中に形成すること。 ・将来における自己の創造性発揮の場を模索すること。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	本科目は学生が企業などの現場に向いて、授業で学んでいる基礎知識と実際の生産・建設部門における応用との総合的関連性を体験することで「ものづくり」の先導的技術者としての実践的技術力を磨くことを目的としている。この学外研修を経験することで、専攻する工学に関する社会的要請を認識し、技術に対する問題意識を深めるとともに特別研究の遂行に役立てることに大きな狙いがある。また、組織の中で活動することで協調性と奉仕の精神を磨き、人間関係の重要性を学び、将来の進路選択の参考にすることも大切である。				
授業の進め方と授業内容・方法	本科目は、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うものである。夏季休業、冬季休業などの長期休業期間を利用して、学外研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲはそれぞれ1、2、3週間、学外研修Ⅳは4週間以上にわたり学外における研修を行う（1週間は45時間とし、学外研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで取得できる単位数はそれぞれ1、2、3、4単位とする）。研修内容は、概ね専攻科修士が従事する程度の業務とする。ただし、危険を伴う業務を含めない。研修先については実施責任者であるコース主任が担当教員など関係教員と協議の上決定する。なお、カリキュラムは後期に配当されているが、夏季休業期間中の履修を認めている。終了後速やかに研修の証明書、報告書、日誌等を提出する。また、研修報告会において成果を発表する。				
注意点	学外研修は、受け入れ機関等の指導担当者に本務の時間を割いて対応して頂いており、受け入れ機関の協力なしに成り立たない科目である。授業の一環であり、明確な目的意識をもって、かつ感謝の気持ちと謙虚な姿勢で参加してほしい。履修学生は、以上のことを踏まえて在学中の貴重な実務経験として活かしてもらいたい。研修先については本人の希望を考慮するが、相手方のあることであり必ずしも希望通りになるとは限らないので留意すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	「八戸工業高等専門学校専攻科学外研修に関する要項」等をもとに進める。学年当初に予定しているガイドランスなどでコース主任、担当教員からそれぞれ説明がある。 主なスケジュールは以下の通りである。		
		2週	1) 研修先の決定（夏季の研修の場合は5月から7月、その他は随時）		
		3週	2) 研修(8月から10月、12月から1月等)		
		4週	3) 学外研修報告会（10月から11月頃、冬1月頃）研修報告会の発表原稿の作成と発表		
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
		研修機関の評価	日誌と報告書	発表会	合計
総合評価割合		60	30	10	100
基礎的能力		0	0	0	0
専門的能力		60	30	10	100
分野横断的能力		0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	学外研修Ⅱ (5932)
科目基礎情報					
科目番号	0019	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材					
担当教員	南 将人				
目的・到達目標					
<p>本科目の達成目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的・技術的感覚を養うこと。 ・技術に対する社会的要請を知り、技術に対する問題意識を養うこと。 ・社会的見地から特別研究の意義と目的を認識し、研究の遂行に役立てること。 ・組織の中で働くことにより、確かな職業観を自己の中に形成すること。 ・将来における自己の創造性発揮の場を模索すること。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	本科目は学生が企業などの現場に向いて、授業で学んでいる基礎知識と実際の生産・建設部門における応用との総合的関連性を体験することで「ものづくり」の先導的技術者としての実践的技術力を磨くことを目的としている。この学外研修を経験することで、専攻する工学に関する社会的要請を認識し、技術に対する問題意識を深めるとともに特別研究の遂行に役立てることに大きな狙いがある。また、組織の中で活動することで協調性と奉仕の精神を磨き、人間関係の重要性を学び、将来の進路選択の参考にすることも大切である。				
授業の進め方と授業内容・方法	本科目は、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うものである。夏季休業、冬季休業などの長期休業期間を利用して、学外研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲはそれぞれ1、2、3週間、学外研修Ⅳは4週間以上にわたり学外における研修を行う（1週間は45時間とし、学外研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで取得できる単位数はそれぞれ1、2、3、4単位とする）。研修内容は、概ね専攻科修士が従事する程度の業務とする。ただし、危険を伴う業務を含めない。研修先については実施責任者であるコース主任が担当教員など関係教員と協議の上決定する。なお、カリキュラムは後期に配当されているが、夏季休業期間中の履修を認めている。終了後速やかに研修の証明書、報告書、日誌等を提出する。また、研修報告会において成果を発表する。				
注意点	学外研修は、受け入れ機関等の指導担当者に本務の時間を割いて対応して頂いており、受け入れ機関の協力なしに成り立たない科目である。授業の一環であり、明確な目的意識をもって、かつ感謝の気持ちと謙虚な姿勢で参加してほしい。履修学生は、以上のことを踏まえて在学中の貴重な実務経験として活かしてもらいたい。研修先については本人の希望を考慮するが、相手方のあることであり必ずしも希望通りになるとは限らないので留意すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	「八戸工業高等専門学校専攻科学外研修に関する要項」等をもとに進める。学年当初に予定しているガイドラインなどでコース主任、担当教員からそれぞれ説明がある。 主なスケジュールは以下の通りである。		
		2週	1) 研修先の決定（夏季の研修の場合は5月から7月、その他は随時）		
		3週	2) 研修(8月から10月、12月から1月等)		
		4週	3) 学外研修報告会（10月から11月頃、冬1月頃）研修報告会の発表原稿の作成と発表		
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
	研修機関の評価	日誌と報告書	発表会	合計	
総合評価割合	60	30	10	100	
基礎的能力	0	0	0	0	
専門的能力	60	30	10	100	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	学外研修Ⅲ(5933)
科目基礎情報					
科目番号	0020	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	3		
教科書/教材					
担当教員	南 将人				
目的・到達目標					
<p>本科目の達成目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的・技術的感覚を養うこと。 ・技術に対する社会的要請を知り、技術に対する問題意識を養うこと。 ・社会的見地から特別研究の意義と目的を認識し、研究の遂行に役立てること。 ・組織の中で働くことにより、確かな職業観を自己の中に形成すること。 ・将来における自己の創造性発揮の場を模索すること。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	本科目は学生が企業などの現場に向いて、授業で学んでいる基礎知識と実際の生産・建設部門における応用との総合的関連性を体験することで「ものづくり」の先導的技術者としての実践的技術力を磨くことを目的としている。この学外研修を経験することで、専攻する工学に関する社会的要請を認識し、技術に対する問題意識を深めるとともに特別研究の遂行に役立てることに大きな狙いがある。また、組織の中で活動することで協調性と奉仕の精神を磨き、人間関係の重要性を学び、将来の進路選択の参考にすることも大切である。				
授業の進め方と授業内容・方法	本科目は、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うものである。夏季休業、冬季休業などの長期休業期間を利用して、学外研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲはそれぞれ1、2、3週間、学外研修Ⅳは4週間以上にわたり学外における研修を行う（1週間は45時間とし、学外研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで取得できる単位数はそれぞれ1、2、3、4単位とする）。研修内容は、概ね専攻科修士が従事する程度の業務とする。ただし、危険を伴う業務を含めない。研修先については実施責任者であるコース主任が担当教員など関係教員と協議の上決定する。なお、カリキュラムは後期に配当されているが、夏季休業期間中の履修を認めている。終了後速やかに研修の証明書、報告書、日誌等を提出する。また、研修報告会において成果を発表する。				
注意点	学外研修は、受け入れ機関等の指導担当者に本務の時間を割いて対応して頂いており、受け入れ機関の協力なしに成り立たない科目である。授業の一環であり、明確な目的意識をもって、かつ感謝の気持ちと謙虚な姿勢で参加してほしい。履修学生は、以上のことを踏まえて在学中の貴重な実務経験として活かしてもらいたい。研修先については本人の希望を考慮するが、相手方のあることであり必ずしも希望通りになるとは限らないので留意すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	「八戸工業高等専門学校専攻科学外研修に関する要項」等をもとに進める。学年当初に予定しているガイドラインなどでコース主任、担当教員からそれぞれ説明がある。 主なスケジュールは以下の通りである。		
		2週	1) 研修先の決定（夏季の研修の場合は5月から7月、その他は随時）		
		3週	2) 研修（8月から10月、12月から1月等）		
		4週	3) 学外研修報告会（10月から11月頃、冬1月頃）研修報告会の発表原稿の作成と発表		
	4thQ	5週			
		6週			
		7週			
		8週			
		9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
	研修期間の評価	日誌と報告書	発表会	合計	
総合評価割合	60	30	10	100	
基礎的能力	0	0	0	0	
専門的能力	60	30	10	100	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	学外研修Ⅳ(5934)
科目基礎情報					
科目番号	0021	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	4		
教科書/教材					
担当教員	南 将人				
目的・到達目標					
<p>本科目の達成目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的・技術的感覚を養うこと。 ・技術に対する社会的要請を知り、技術に対する問題意識を養うこと。 ・社会的見地から特別研究の意義と目的を認識し、研究の遂行に役立てること。 ・組織の中で働くことにより、確かな職業観を自己の中に形成すること。 ・将来における自己の創造性発揮の場を模索すること。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	本科目は学生が企業などの現場に向いて、授業で学んでいる基礎知識と実際の生産・建設部門における応用との総合的関連性を体験することで「ものづくり」の先導的技術者としての実践的技術力を磨くことを目的としている。この学外研修を経験することで、専攻する工学に関する社会的要請を認識し、技術に対する問題意識を深めるとともに特別研究の遂行に役立てることに大きな狙いがある。また、組織の中で活動することで協調性と奉仕の精神を磨き、人間関係の重要性を学び、将来の進路選択の参考にすることも大切である。				
授業の進め方と授業内容・方法	本科目は、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うものである。夏季休業、冬季休業などの長期休業期間を利用して、学外研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲはそれぞれ1、2、3週間、学外研修Ⅳは4週間以上にわたり学外における研修を行う（1週間は45時間とし、学外研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで取得できる単位数はそれぞれ1、2、3、4単位とする）。研修内容は、概ね専攻科修士が従事する程度の業務とする。ただし、危険を伴う業務を含めない。研修先については実施責任者であるコース主任が担当教員など関係教員と協議の上決定する。なお、カリキュラムは後期に配当されているが、夏季休業期間中の履修を認めている。終了後速やかに研修の証明書、報告書、日誌等を提出する。また、研修報告会において成果を発表する。				
注意点	学外研修は、受け入れ機関等の指導担当者に本務の時間を割いて対応して頂いており、受け入れ機関の協力なしに成り立たない科目である。授業の一環であり、明確な目的意識をもって、かつ感謝の気持ちと謙虚な姿勢で参加してほしい。履修学生は、以上のことを踏まえて在学中の貴重な実務経験として活かしてもらいたい。研修先については本人の希望を考慮するが、相手方のあることであり必ずしも希望通りになるとは限らないので留意すること。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	「八戸工業高等専門学校専攻科学外研修に関する要項」等をもとに進める。学年当初に予定しているガイドランスなどでコース主任、担当教員からそれぞれ説明がある。 主なスケジュールは以下の通りである。		
		2週	1) 研修先の決定（夏季の研修の場合は5月から7月、その他は随時）		
		3週	2) 研修（8月から10月、12月から1月等）		
		4週	3) 学外研修報告会（10月から11月頃、冬1月頃）研修報告会の発表原稿の作成と発表		
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
	研修機関の評価	日誌と報告書	発表会	合計	
総合評価割合	60	30	10	100	
基礎的能力	0	0	0	0	
専門的能力	60	30	10	100	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	表現法(5004)		
科目基礎情報							
科目番号	0088		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	1			
教科書/教材	伊勢田哲治ほか『科学技術をよく考える』名古屋大学出版会						
担当教員	戸田山 みどり						
目的・到達目標							
科学技術に関して意見の分かれる諸課題について、対立する意見を検討し、自分たちで議論することを通して、論点を整理し、自分なりの意見を述べる方法を学ぶ。各テーマごとに、教科書等を参考にしながらテーマの要点を確認し、グループに分かれて意見交換をする。クリティカル・シンキングの技法を学ぶとともに、本科で学んだ科学技術社会論の基礎知識を応用できるようにする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	建設的な討論ができる。		目的にあった効果的な討論ができる。		目的に応じた討論が成立しない。		
評価項目2	論理的な説明が的確にできる。		論理的な説明がおおむねできる。		論理的な説明ができない。		
評価項目3	多様な意見を整理して紹介できる。		多様な意見を紹介できる。		多様な意見をみとめることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP1 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○							
教育方法等							
概要	討論を楽しむことを勉強する。世の中には賛成と反対に分かれて議論することがある。議論をすすめるうえで、ふまえるべきことをふまえないと、議論がかみ合わず、徒労に終わってしまうことがある。徒労に終わらせないために、どうすればよいのかを学ぶ。						
授業の進め方と授業内容・方法	討論は、「導入、事実と状況の確定、反対意見、問題の所在、結論」から成り立つ。事実を踏まえ、どこどこが対立しているのかを確定し、それに対して自分はどんな見解を持つのかを明らかにする。						
注意点	討論には積極的に参加すること。						
授業計画							
		週	授業内容・方法			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の概略。「年齢を運転免許の取り消し条件にすべきか」の事実確認				
		2週	テーマ1 予防原則				
		3週	テーマ1 原因推定の方法				
		4週	テーマ2 自由主義とパターンリズム				
		5週	テーマ2 二重盲検法				
		6週	テーマ3 異文化コミュニケーションとしての科学コミュニケーション				
		7週	テーマ3 シミュレーションの信頼性				
		8週	テーマ4 科学技術政策の変遷				
	2ndQ	9週	テーマ4 「予断」の必要性				
		10週	テーマ5 動物としての人間				
		11週	テーマ5 功利主義とマクシミン規則				
		12週	それぞれに新しいテーマを見つける				
		13週	情報の整理				
		14週	討論				
		15週	グループごとの発表				
		16週	まとめ				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	35	15	0	0	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	35	15	0	0	0	50

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	日本文化史概論(5013)
科目基礎情報					
科目番号	0089	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教員配布資料				
担当教員	中村 泰朗				
目的・到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画・工芸・建築といった文化財学的観点から、日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解する。 ・ 日本文化について、時代ごとの違いを理解できるようになる。 ・ 日本文化について、世界の文化と関連付けて理解できるようになる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解し説明できる。	日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解できる。	日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解できない。		
評価項目2	日本文化について、時代ごとの違いを理解し説明できる。	日本文化について、時代ごとの違いを理解できる。	日本文化について、時代ごとの違いを理解できない。		
評価項目3	日本文化について、世界の文化と関連付けて理解し説明できる。	日本文化について、世界の文化と関連付けて理解できる。	日本文化について、世界の文化と関連付けて理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP1					
教育方法等					
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献、絵画、建築など様々な史料を多角的に検討することで、日本と世界の文化を正しく理解する。 ・ モノづくりの歴史を学ぶことで、文化史と技術史を学際的に理解する。 ・ 日本の文化と世界の文化の関連性を学ぶことで、異文化理解の重要性を理解する。 				
授業の進め方と授業内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配布プリントおよびスライドを中心とした講義形式を採用する。 ・ 評価は到達度試験によって行い、100点満点中60点以上を合格とする。 				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本および世界の歴史や文化について、日ごろから関心を持つようにすること。 ・ 近隣の博物館や歴史的名所を訪れることによって、授業内容の復習と確認を行うこと。 				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	今日における日本と世界の文化の多様性について、基本的な情報を整理する。	
		2週	古代の文化①	古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		3週	古代の文化②	古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		4週	古代の文化③	古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		5週	古代の文化④	古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		6週	古代の文化⑤	古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		7週	中世の文化①	中世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		8週	中世の文化②	中世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
	4thQ	9週	中世の文化③	中世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		10週	中世の文化④	中世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		11週	近世の文化①	近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		12週	近世の文化②	近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		13週	近世の文化③	近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		14週	近世の文化④	近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		15週	近世の文化⑤	近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。	
		16週	到達度試験 まとめ		
評価割合					
		到達度試験	合計		
総合評価割合		100	100		
基礎的能力		100	100		

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	総合英語B(5002)			
科目基礎情報								
科目番号	0090		科目区分	一般 / 必修				
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専2				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	Grussendorf, M. 2007. English for Presentations. Oxford: Oxford University Press.							
担当教員	菊池 秋夫, マシュー トーマス							
目的・到達目標								
高専本科で身に付けた基礎的な読解力から、データの読み方や500語以上のパラグラフライティングができる力。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	アカデミックパラグラフライティングができる		論理的なパラグラフライティングができる		パラグラフライティングができる			
評価項目2	アカデミックプレゼンテーションができる		長めのプレゼンテーションができる		プレゼンテーションができる			
評価項目3								
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○								
教育方法等								
概要	高専本科で身に付けた基礎的な読解力とコミュニケーション能力および前期開講の総合英語Aで練習した応答力をもとに、パラグラフレベルでのインプットと同時にアウトプットトレーニングを目的とする。							
授業の進め方と授業内容・方法	1学年に学習したパラグラフリーディングをより実践的に活用しトレーニングし、前半約50分は多読学習を通じインプットを強化する。後半はまたさまざまな場面を想定したプレゼンテーションにむけたライティングの練習をすることで、アウトプットのトレーニングを行い、確実に身に付くことをめざす。しばしば小テストを行い、実践的な把握力を鍛える。また、作文の添削指導を行う。 This class focus on improving learners' presentation and writing skills. Through practical writing, students are expected to develop writing skills.							
注意点	学生の積極的な参加を前提とする。なお、英和・和英辞書は毎時間必ず持参しなければならない。またALCで積極的な耳慣らし、シャドーイングなどを課題として課す。							
授業計画								
	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	Introduction					
		2週	Writing Practice / Presentation			Use Topic sentences		
		3週	Writing Practice / Presentation			Use supporting sentences		
		4週	Writing Practice / Presentation			Use conclusive sentences		
		5週	Writing Practice / Presentation			Can describe the shape		
		6週	Writing Practice / Presentation			Can describe the content		
		7週	Writing Practice / Presentation			Can analyse the data		
		8週	Writing Practice / Presentation			Can summarize the points		
	2ndQ	9週	Writing Practice / Presentation			Can make a paragraph		
		10週	Writing Practice / Presentation			Can unify paragraphs		
		11週	Writing Practice / Presentation			Can make a poster in English		
		12週	Writing Practice / Presentation			Can use the expressions used in posters		
		13週	Writing Practice / Presentation			Can give a presentation in slow English		
		14週	Writing Practice / Presentation			Can give a presentation in normal English		
		15週	Writing Practice / Presentation			Can give a presentation before all.		
		16週	Review					
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	20	0	20	60	0	100	
基礎的能力	0	20	0	20	60	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	人文社会科学要論(5106)
科目基礎情報					
科目番号	0091	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専2		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	教員が作成したテキスト				
担当教員	高橋 要				
目的・到達目標					
現代論理学の考え方を理解すること、および命題計算がどれかの方法でできることを目標とする					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	歴史上に現れた論理学の種類とその概要を説明できる	歴史上に現れた論理学の主なものとその概要を説明できる	歴史上に現れた論理学の主なものとその概要を説明できない		
評価項目2	論理学の定義と現代論理学の研究方法を説明できる	論理学の定義と現代論理学の研究方法を理解している	論理学の定義と現代論理学の研究方法を理解していない		
評価項目3	形式言語Lの構成要素とその解釈を理解し、Lを構成することができる	形式言語Lの構成要素とその解釈を理解している	形式言語Lの構成要素とその解釈を理解していない		
評価項目4	命題論理の公理系における演繹およびその意味論における論理計算ができる	命題論理の公理系における演繹またはその意味論における論理計算ができる	命題論理の公理系における演繹もその意味論における論理計算もできない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP1					
教育方法等					
概要	論理とは何か、論理学とはどういう学問か、についての概略的な知識を身に付けた上で、現代記号論理学の初歩的な演算・証明の技術を訓練することを主眼とする。その訓練を通して、合理的な思考様式を身に付け、論理的なものの考え方が深められるようにしたい。				
授業の進め方と授業内容・方法	論理学の歴史、様々な種類の論理学を紹介した後で、現代の記号論理学に入る。形式言語Lを構成してから、命題論理の公理系とその意味論を解説し、命題論理の完全性証明(決定可能性)を経て、計算可能性の理論に進み、オートマトンの理論から全加算機を論理的に構成する。受講者の理解度に余裕があれば一階の述語論理の理論をも瞥見する。				
注意点	授業は毎回、講義と演習問題により構成されるが、予備知識は何も必要とされない。コンピュータの基礎理論としてばかりではなく、全ての学問の基礎あるいはものを正しく考えるということに興味を持っていることが望まれる。尚、自学自習の成果は宿題によって評価する。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	序章 論理学とは何か: 0.1. 論理学の種類(1)	古代から中世にかけて現れた論理学の種類とその概要を理解する	
		2週	0.1. 論理学の種類(2)	近世から現代にかけて現れた論理学の種類とその概要を理解する	
		3週	0.2. 論理学の定義 0.3. 論理学の研究手法	論理学の定義とその研究方法を理解する	
		4週	第1章 形式言語L: 1.1. 構成要素	形式言語とは何かを理解し、その一例であるLの構成要素を理解する	
		5週	1.2. 解釈と翻訳	形式言語Lの構成要素の解釈と日常言語の形式言語Lへの翻訳ができる	
		6週	第2章 命題論理: 2.1. 構文論: 2.1.1. 公理系S(1)	形式言語Lを用いて公理系Sを構成する	
		7週	2.1.1. 公理系S(2) 公理系Sにおける証明の練習	公理系Sにおいて「公理からの証明」を演習問題により身につける	
		8週	2.1.1. 公理系S(3) 公理系Sにおける演繹の練習	公理系Sにおいて「演繹定理を用いた証明」を演習問題により身につける	
	2ndQ	9週	2.1.2. 自然演繹体系NK(1)	形式言語Lを用いて自然演繹体系NKを構成する	
		10週	2.1.2. 自然演繹体系NK(2) 自然演繹体系NKにおける演繹の練習	自然演繹体系NKにおいて演繹を演習問題により身につける	
		11週	2.2. 意味論: 2.2.1. 命題記号の解釈	公理系Sの意味論を構成し、命題記号の解釈を理解する	
		12週	2.2.2. 論理結合子の解釈	公理系Sの意味論における論理結合子の解釈を理解する	
		13週	2.2.3. 公理系Sのモデル 3.2.4. 妥当性	公理系Sのモデルを構成し、それにおける命題の妥当性を判定できるようにする	
		14週	第3章 命題論理体系の諸性質: 3.1. 健全性 3.2. 無矛盾性 3.3. 完全性	論理体系における諸性質を理解し、公理系Sのそれらの性質を証明する	
		15週	期末試験		
		16週	期末試験の答案返却とまとめ		
評価割合					
		試験	レポート	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	総合英語C(5003)			
科目基礎情報								
科目番号	0092		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専2				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	Oxford EAP							
担当教員	菊池 秋夫, マシュー トーマス							
目的・到達目標								
高専本科で身に付けた基礎的な読解力とコミュニケーション能力および前期開講の総合英語A、Bで練習した応答力をもとに、パラグラフレベルでのインプットと同時にアウトプットトレーニングを目的とする。特に各学生の専攻内容に関しての論文読解等についての実践的なトレーニングを行う。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	パラグラフリーディングができる (TOEIC600レベル)		パラグラフリーディングができる (TOEIC500レベル)		パラグラフリーディングができる (TOEIC400未満)			
評価項目2	首尾一貫したパラグラフライティングが600語以上できる		首尾一貫したパラグラフライティングができる		首尾一貫したパラグラフライティングができない			
評価項目3	首尾一貫したプレゼンテーションが原稿を見ずにできる		首尾一貫したプレゼンテーションができる		首尾一貫したプレゼンテーションができない			
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○								
教育方法等								
概要	高専本科で身に付けた基礎的な読解力とコミュニケーション能力および前期開講の総合英語A、Bで練習した応答力をもとに、パラグラフレベルでのインプットと同時にアウトプットトレーニングを目的とする。特に各学生の専攻内容に関しての論文読解等についての実践的なトレーニングを行う。							
授業の進め方と授業内容・方法	This class focus on improving learners' communication skills (especially reading). Through practical writing, students are expected to develop communication skills on each academic topic for giving final presentation.							
注意点	学生の積極的な参加を前提とする。なお、英和・和英辞書は毎時間必ず持参しなければならない。またALCで積極的な耳慣らし、シャドーイングなどを課題として課す							
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	Introduction			General survey		
		2週	Reading Practice / Presentation			Topic sentence		
		3週	Reading Practice / Presentation			Reading analysis		
		4週	Reading Practice / Presentation			Reading marker		
		5週	Reading Practice / Presentation			academic technical term		
		6週	Reading Practice / Presentation			academic technical term		
		7週	Reading Practice / Presentation			academic technical term		
	8週	Reading Practice / Presentation			academic technical term			
	4thQ	9週	Writing Practice / Presentation			expression for topic sentence		
		10週	Writing Practice / Presentation			expression for paragraph		
		11週	Writing Practice / Presentation			expression for paragraph		
		12週	Writing Practice / Presentation			expression for discussion		
		13週	Writing Practice / Presentation			expression for discussion		
		14週	Writing Practice / Presentation			expression for comparison		
		15週	Writing Practice / Presentation			expression for comparison		
16週		Writing Practice / Presentation			expression for conclusion			
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	40	40	20	0	0	100	
基礎的能力	0	40	40	20	0	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	生物学概論(5007)		
科目基礎情報							
科目番号	0096		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教員配布資料						
担当教員	山本 歩						
目的・到達目標							
1. 生命現象と環境の関わりを通じ、地球環境を広い視野で考えることができる 2. 生命の尊厳の理解							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
細胞の基本的な構造と活動(タンパク質合成・エネルギー代謝・細胞分裂)について説明できる。	細胞の構造や基本的な活動についてよく理解し、名称だけでなくその役割や働きを図示して説明できる。		細胞の構造や基本的な活動について部分的に理解し、名称だけでなくその役割や働きを説明できる。		細胞の構造や基本的な活動について理解できず、一切の説明ができない。		
代表的な生体分子(DNA・タンパク質)の構造と役割について説明できる。	DNAとタンパク質の基本的な構造についてよく理解し、与えられた選択肢の中から正解を選択し、説明できる。		DNAとタンパク質の基本的な構造について部分的に理解し、与えられた選択肢の中から正解を選択できる。		DNAとタンパク質の基本的な構造について理解できず、与えられた選択肢から正解を選択することも説明することもできない。		
遺伝の仕組みと突然変異について説明できる。	遺伝の仕組みについてよく理解し複数の例を挙げて説明できる。さらに突然変異のタイプについて複数説明できる。		遺伝の仕組みについて部分的に理解し例を挙げて説明できる。さらに突然変異のタイプについて部分的に説明できる。		遺伝の仕組みや突然変異のタイプについて理解できず説明もできない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP2							
教育方法等							
概要	地球上には数百万種にも及ぶ多種多様な生物が存在し、それらの種々の生命現象が密接に関連し合うことで生物の営みが成り立っている。本授業では、そのような生命現象に関する知識を深めて、最新の生命科学関連分野のニュースを適切に理解できる程度の生物学の教養を得ることを目標とする。						
授業の進め方と授業内容・方法	生命現象の基礎として以下のことを取り扱う。1. 生物は細胞を基本単位としている。2. 生殖によって新しい個体を作る。3. 遺伝子によって親から子へ形質を伝える。4. 生物は進化する。授業は主に講義形式で実施するが、適宜グループワークによる調査、発表を行い理解を深める。						
注意点	履修にあたっては、本科の「生物」の内容を十分に復習しておくこと。本科目は基礎生物学と、最新の応用生物学の橋渡しの内容となる。また、生物を扱う学問は総合的な自然科学である。そのため、生物系科目だけでなく、化学系、物理系も含めて自然科学系の授業内容を広く理解しておくこと。成績は到達度試験80%、課題・宿題を20%として評価を行い、総合評価を100点満点として、60点以上を合格とする。答えは採点后返却し、達成度を伝える。						
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	環境問題と生物学①	生物の世界を階層に分けて捉えることを理解する。			
		2週	環境問題と生物学②	生物の世界を階層に分けて捉えることを理解する。			
		3週	細胞としての生物① (細胞の構造)	細胞の構造と仕組みについて理解する。			
		4週	分子としての生物① (タンパク質・核酸)	DNAとタンパク質の基本構造とその役割についてセントラルドグマと併せて理解する。			
		5週	分子としての生物② (脂質)	脂質の基本的な構造と役割について理解する。			
		6週	個体を増やすしくみ① (生殖と発生)	生殖と発生を経た個体の形成について理解する。			
		7週	個体を増やすしくみ② (生殖と発生)	生殖と発生を経た個体の形成について理解する。			
		8週	個体を次代に残す① (遺伝)	メンデルの遺伝の法則を基礎とし伴性遺伝や血液型の遺伝などについて理解するとともに、突然変異による遺伝情報の変化を学ぶ。			
	2ndQ	9週	個体を次代に残す② (遺伝と環境汚染の関り)	メンデルの遺伝の法則を基礎とし伴性遺伝や血液型の遺伝などについて理解するとともに、突然変異による遺伝情報の変化を学ぶ。			
		10週	個体を守るしくみ① (血液と免疫)	血液成分と免疫細胞の役割について学ぶ。			
		11週	個体を守るしくみ② (血液と免疫)	血液成分と免疫細胞の役割について学ぶ。			
		12週	生態系と多様性① (個体群と生物群集)	生態学の観点から生物多様性を理解する。			
		13週	生態系と多様性② (生態系) ②	生物の進化と多様性について学ぶ。			
		14週	生物の進化と多様性	生物の進化と多様性について学ぶ。			
		15週	到達度試験	学習した内容の到達度を筆記試験にて確認する。			
		16週	到達度試験の答案返却とまとめ	到達度試験の答案解説とともに学習内容の総まとめを行い全体の理解を深める。			
評価割合							
	試験	発表・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	環境都市・建築デザイン工学 演習Ⅱ(9008)	
科目基礎情報							
科目番号	0084		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザイン コース		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	1			
教科書/教材	教員作成プリント						
担当教員	今野 恵喜						
目的・到達目標							
手法の理解と適用法の習得							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	手法が理解でき、適用もでき、さらに、広い応用へのアイデアをもてる。		手法が理解でき、適用もできる。		手法が理解できず、適用もできない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP3							
教育方法等							
概要	計画系のみならず、実験系においても関連する分析・評価手法を学び、それらを適用できることを目標とする。前期週2時間						
授業の進め方と授業内容・方法	基本を学び、可能な限り自分の専門領域からデータを収集し、手法を適用して検討する。それらを報告し合い、事例を知り、更なる適用について考える。分析レポート・発表を100%として評価（総合評価100点）し、60点以上を合格とする。レポートは採点后返却し、達成度を伝達する。						
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科で使用の教科書、ノート等を持参 ・自分の専門領域と関連づけて考えること。 						
授業計画							
		週	授業内容・方法			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス			授業内容や到達目標が説明できる。	
		2週	計画における調査計画			調査の流れについて説明できる。	
		3週	調査、データの収集・整理			調査票作成のポイント、標本抽出、各種調査方法について説明できる。	
		4週	計画関連手法Ⅰ（傾向の推測①）			重回帰分析の理論や活用について説明できる。	
		5週	データ収集			自分の専門領域を中心にデータを収集する。	
		6週	分析			分析ソフトを使って分析を実行でき、結果の妥当性を判断できる。	
		7週	分析結果について発表			分析結果をまとめた資料を基に発表し、質問に答え、討議ができる。	
		8週	計画関連手法Ⅱ（傾向の推測②）			数量化理論第Ⅰ類の理論や活用について説明できる。	
	2ndQ	9週	データ収集			自分の専門領域を中心にデータを収集する。	
		10週	分析			分析ソフトを使って分析を実行でき、結果の妥当性を判断できる。	
		11週	分析結果について発表			分析結果をまとめた資料を基に発表し、質問に答え、討議ができる。	
		12週	計画関連手法Ⅲ（意思決定）			階層分析法の理論や活用について説明できる。	
		13週	データ収集			自分の専門領域を中心にデータを収集する。	
		14週	分析			分析ソフトを使って分析を実行でき、結果の妥当性を判断できる。	
		15週	分析結果について発表			分析結果をまとめた資料を基に発表し、質問に答え、討議ができる。	
		16週					
評価割合							
	分析レポート・発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	特別研究Ⅱ (9890)
科目基礎情報					
科目番号	0085	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	学修単位: 10		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専2		
開設期	通年	週時間数	5		
教科書/教材	指導教員の指示による				
担当教員	藤原 広和,丸岡 晃				
目的・到達目標					
自主的・継続的な学習能力の習得。 研究課題を的確にとらえ、研究を計画的に遂行し、結果を解析し考察する能力の習得。 研究成果をまとめ、論文として記述し、発表する能力の習得。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP1 学習・教育到達度目標 DP2 学習・教育到達度目標 DP3 学習・教育到達度目標 DP4 学習・教育到達度目標 DP5 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	専攻分野（構造解析学、構造工学、海岸工学、水理学、地域計画学、建設材料学、水環境工学、地盤工学、建築学など）における特定の研究課題について指導教員の下で個々に研究し、専門知識の総合化と深化を図りつつ課題解決に向けて理論的、かつ、実践的に取組み、解決する能力と独創性を育成する。				
授業の進め方と授業内容・方法	構造解析学、構造工学、海岸工学、水理学、地域計画学、建設材料学、水環境工学、地盤工学などの各専攻分野について指導教員が提示した研究テーマなどから各自が研究対象を選び、各専門分野の研究を行う。指導教員などと議論しながら、文献調査、実験・実測、数値シミュレーションなどの適切な手法を用い、何らかの結論を明らかにし、論文としてまとめて提出し、その発表を行う。 評価方法：平素の研究状況（計画性、継続性、理解度、創意工夫、学会発表など）と特別研究論文（構成、内容・分量、英語概要、完成度など）（計70%）と研究発表（発表資料、発表技術、分かり易さ、理解度など）（計30%）に基づき評価する。平素の研究状況については担当教員が評価する。特別研究論文については担当教員と副査教員が評価する。研究発表については所属する専攻の教員が評価する。以上を総合して、100点満点で60点以上を合格とする。日常の指導を通して、到達度を確認させる。				
注意点	技術開発能力、研究遂行能力および発表能力の修得に、留意すること。 特別研究Ⅱは特別研究ⅠA、特別研究ⅠBに引き続き行われる。発表会は、中間発表1回、最終発表の計2回行う。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	指導教員の決定後、各指導教員の元で進める。研究テーマは2週～10週の通りである。		
		2週	水環境の保全と有機性廃棄物の有効利用に関する研究（矢口）		
		3週	浅海域の波浪変形と海岸保全工法（南）		
		4週	海・湖・河川における物質の移動と混合特性（藤原）		
		5週	風工学における数値流体解析の適用（丸岡）		
		6週	計算力学への知識工学の利用（杉田）		
		7週	地盤中の物質移動に関する研究（清原）		
		8週	セメント系材料の高機能化に関する研究（庭瀬）		
	2ndQ	9週	建築に関連する研究（馬渡）		
		10週	建築に関連する研究（金）		
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			

		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	平素の研究状況（計画性、継続性、理解度、創意工夫、学会発表など）と発表資料（構成、内容、完成度など）	研究発表（プレゼンテーション用資料、発表技術、分かり易さ、理解度など）	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	海岸港湾工学(9910)
科目基礎情報					
科目番号	0086	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教員作成テキスト				
担当教員	南 将人				
目的・到達目標					
海岸に作用する様々な外力を予測し、各種構造物を海岸に設置した後の汀線および地形変化を予測できる。また港湾の重要性と計画について説明できる事が目標である。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
漂砂現象	砂移動の外力や移動形態等を十分理解できる	砂移動の外力や移動形態等を理解できる	砂移動の外力や移動形態等を理解できない		
侵食と保全施設	侵食の原因や保全施設工法について十分理解できる	侵食の原因や保全施設工法について理解できる	侵食の原因や保全施設工法について理解できない		
港湾の必要性と施工	各種港湾の必要性や製作方法等について十分理解できる	各種港湾の必要性や製作方法等について理解できる	各種港湾の必要性や製作方法等について理解できない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP3					
教育方法等					
概要	1954年神戸にて「第1回海岸工学研究発表会」が開催されて以来、我が国の海岸工学は発展を遂げてきた。本科目は土木工学の主要分野の一つである水工水理学に属し、相次ぐ高潮(storm surge)や侵食災害(erosion disaster)からの海岸保護・保全(coastal protection)の必要性に加え、干拓(reclamation by drainage)地造成や高度成長に伴う臨海地帯の開発(develop at waterfront)など、海洋への進出に伴う海岸に対する人々の期待は増している。汀線移動(shoreline change)や水深変化(water depth change)等、海底に発生する砂移動を理解する事が目標であり、実例および理論的考察を通じて、構造物設置に伴う地形変化を予測し、文書にて伝達する能力の習得を目標(goal)としている。また、港湾の重要性や各種港の特徴と計画方法について説明できる能力の習得を目標としている。				
授業の進め方と授業内容・方法	第5学年の海岸工学の続きである。より正確に、かつ平面的に汀線と水深変化を予測し、構造物の最適形状の設定や、効果の予測能力習得の為、初めに底質(sediment)の特徴および取り扱い方を学ぶ。次に砂移動の外力となる波・流れ(wave and current)等の取り扱い方を学び、汀線(shoreline)および水深変化の計算方法を説明する。また、港湾の能力や外かく施設や水域施設の配置の意義と計画について説明する。				
注意点	授業の進行・理解度の把握、到達度の確認を目的として適宜ノートを集める。また、自学自習の課題は試験範囲に含まれる。				
授業計画					
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	漂砂と海岸保全施設 総論(outline of sand drift)	砂移動の形態と各種保全施設の特徴を理解できる	
		2週	底質の特性 (The characteristic of bed material)	代表粒径の取り扱いや比重等の物理量を理解できる	
		3週	漂砂の種類(The kind of sand drift)	砂の移動形態(浮遊、掃流、ウォッシュロード、飛砂)を理解できる	
		4週	漂砂の供給源と卓越方向(source and predominant direction of littoral drift)	砂の供給源や流れや波向による移動方向を理解できる	
		5週	漂砂の原因となる外力 有限振幅波理論と波浪変形(finite amplitude wave theory)	微小振幅波と有限振幅波の違い、浅海域における8種類の変形を理解できる	
		6週	質量輸送速度と沿岸流(mass transport velocity and longshore current)	砂移動の要因である流れについて、その発生過程を理解できる	
		7週	漂砂量 波による底質の移動限界(critical depth)	4種類の移動限界水深の特徴を理解できる	
		8週	漂砂量の算定(drift sand)、浮遊漂砂(suspended sediment)	波エネルギーの算定と漂砂量との関係を理解できる	
	4thQ	9週	海浜変化 漂砂と海岸過程(sediment transport and beach process)	漂砂の連続式を用いて、将来地形を予測する事ができる	
		10週	侵食対策(shore protection method against erosion)	侵食の要因とその対策工について理解できる	
		11週	港湾計画 概要と港湾の荷役能力(outline and cargo handling)	港湾の重要性と荷役能力について理解できる	
		12週	外かく施設(outlying facilities of harbor)	各種外かく施設重要性と製作方法を理解できる	
		13週	水域施設(waterways and basins)	水域施設の必要性と製作・維持方法を理解できる	
		14週	工業港と漁港の計画(industrial port and fishing port planning)	各種港湾・漁港の設置計画について理解できる	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却とまとめ	間違った問題の正答を算出する事ができる	
評価割合					
		試験	課題発表	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	地域計画学特論(9905)		
科目基礎情報							
科目番号	0087		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教員作成プリント						
担当教員	今野 恵喜						
目的・到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土・地域・都市の現状を説明できる。 国土計画・広域計画の考え方を説明できる。 都市域と農山村域での計画や手法を説明できる。 計画策定に関連する基本的分析ができる。 							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	我が国の国土・地域・都市の現状を説明でき、さらに、東北地域の現状についても説明できる。		我が国の国土・地域・都市の現状を説明できる。		我が国の国土・地域・都市の現状を説明できない。		
評価項目2	国土計画・広域計画の考え方を説明でき、さらに、東北地域との関連についても説明できる。		国土計画・広域計画の考え方を説明できる。		国土計画・広域計画の考え方を説明できない。		
評価項目3	都市域と農山村域での計画や手法を説明でき、さらに、東北地域についても説明できる。		都市域と農山村域での計画や手法を説明できる。		市域と農山村域での計画や手法を説明できない。		
評価項目4	計画策定に関連する基本的分析ができ、さらに、応用面のアイデアをもてる。		計画策定に関連する基本的分析ができる。		計画策定に関連する基本的分析ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP3 地域志向 ○							
教育方法等							
概要	地域計画は、一般的には国土計画以下のある一定の地域を対象としている。その地域について望ましい将来像を描き、これを実現するための体系化、総合化された施策群を中心とする過程を明らかにするものである。基本的な地域計画関連知識を習得し、計画策定に携われる技術者を育成することを目標とする。前期週2時間						
授業の進め方と授業内容・方法	我が国の各種の計画を考える上で広く前提となる「我が国の国土・地域・都市の現状」について整理し、次に、その上位計画となる「国土計画・広域計画」について、その考え方の変遷に重点を置いて解説する。さらに、これらの状況から、都市域と農村域において、それぞれどのような課題や具体的計画、及び関連手法等が工夫されているのかについて「都市計画」、「農山村計画」でその全体像を示す。さらに加えて、「計画策定のための計量分析」についても触れる。東北地域を意識した講義にしたい。到達度試験70%、演習・レポート等を30%として評価を行い、総合評価は100点満点として、60点以上を合格とする。答えは採点后返却し、達成度を伝達する。						
注意点	日常の新聞記事に着目していること。演習を行うので電卓は必ず持参する。 欠席した場合、後日担当教員を訪ね、指示を受けること。 自学自習は到達度試験、演習・レポートにて評価する。						
授業計画							
		週	授業内容・方法			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	総説			授業内容や到達目標が説明できる。	
		2週	我が国の国土・地域・都市の現状			我が国の国土・地域・都市の現状を説明できる。	
		3週	国土計画・広域計画			国土計画・広域計画の考え方を説明できる。	
		4週	都市計画			都市域での計画や手法を説明できる。	
		5週	農山村計画			農山村域での計画や手法を説明できる。	
		6週	計画策定のための計量分析(人口関連)			人口関連の予測手法を理解し、適用ができる。	
		7週	計画策定のための計量分析(地域分析)			地域特性関連の分析手法を理解し、適用ができる。	
		8週	計画策定のための計量分析(地域分析)			地域間相互作用モデル関連の分析手法を理解し、適用ができる。	
	2ndQ	9週	計画策定のための計量分析(経済分析)			地域の産業連関関連の分析手法を理解し、適用ができる。	
		10週	計画策定のための計量分析(経済分析)			費用便益分析関連の分析手法を理解し、適用ができる。	
		11週	計画策定のための計量分析(土地利用関連)			小売買物モデル関連の分析手法を理解し、適用ができる。	
		12週	計画策定のための計量分析(土地利用関連)			土地利用モデル関連の分析手法を理解し、適用ができる。	
		13週	計画策定のための計量分析(その他)			ネットワーク分析関連の分析手法を理解し、適用ができる。	
		14週	計画策定のための計量分析(その他)			その他の計量分析手法を理解し、適用ができる。	
		15週	期末試験の答案返却とまとめ			到達目標を満たす。	
		16週					
評価割合							
	期末試験	演習・レポート等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	情報工学(5205)		
科目基礎情報							
科目番号	0093		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	情報理論のエッセンス (平田廣則、オーム社)						
担当教員	中ノ 勇人						
目的・到達目標							
<p>本校専攻科の教育目標の一つは、情報処理技術を習得することである。そのため本科目では情報処理の基礎としての情報理論について講義を行う。情報理論は深く幅広い内容を持つ分野である。随所で実例による詳細な説明を行いつつも情報理論の全体像をつかむことに重点をおいて講義を行う。</p> <p>目標としては、個々の技術を理解しつつ、符号化、伝送、復号化のシステム全体の流れをつかんでいること、等があげられる。「情報」とは何か、という間に技術者としての自らの答を見つけることも期待する。</p>							
ループリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		誤り訂正の持つ意味を、情報理論的観点から説明できる。	個々の技術を理解しつつ、符号化、伝送、復号化のシステム全体の流れをつかんでいる。	相互情報量の計算ができない。			
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP2							
教育方法等							
概要	本校専攻科の教育目標の一つは、情報処理技術を習得することである。そのため本科目では情報処理の基礎としての情報理論について講義を行う。情報理論は深く幅広い内容を持つ分野である。随所で実例による詳細な説明を行いつつも情報理論の全体像をつかむことに重点をおいて講義を行う。目標としては、個々の技術を理解しつつ、符号化、伝送、復号化のシステム全体の流れをつかんでいること、等があげられる。「情報」とは何か、という間に技術者としての自らの答を見つけることも期待する。						
授業の進め方と授業内容・方法	【 授業概要・方針 】 情報理論の個々の技術（データ圧縮、誤り訂検出等、に関する手法）について実例による詳細な説明を行いつつも、それぞれの技術の関係を明確にし、全体像をつかむことに重点をおいて講義をすすめる						
注意点	【 履修上の留意点 】 個々の技術は確率論や線形代数などに密接に関係があるので、これらについての知識が必要である。あらかじめ復習しておくことが望ましい。基本的な演習問題を課題として与えるので、積極的に取り組むこと。						
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	「情報」と「通信」そして「計算」の概念				
		2週	条件付き確率とマルコフ過程				
		3週	情報量とエントロピー				
		4週	平均符号長と復号可能性				
		5週	拡大情報源によるデータ圧縮				
		6週	ハフマン符号による情報源符号化				
		7週	結合エントロピーと条件付きエントロピー				
		8週	相互情報量とマルコフ情報源のエントロピー				
	2ndQ	9週	通信路モデル				
		10週	通信路容量				
		11週	通信路の平均誤り率				
		12週	誤り検出訂正とパリティ符号				
		13週	線形符号				
		14週	巡回符号				
		15週	期末試験				
		16週	期末試験の答案返却とまとめ				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	応用数学B(5912)		
科目基礎情報							
科目番号	0094		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	複素解析へのアプローチ、山本 稔、坂田 定久 共著、裳華房						
担当教員	鳴海 哲雄						
目的・到達目標							
複素平面、正則関数、コーシー・リーマンの関係式、複素積分、コーシーの積分定理、ローラン展開、留数 等を理解する。 具体的には、教科書の問題と同レベルのものが解けるようになることである。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		複素平面、正則関数、コーシー・リーマンの関係式を理解する。 具体的には、教科書の問題と同レベルのものが解ける。	複素平面、正則関数、コーシー・リーマンの関係式を理解する。 具体的には、教科書の基本的な問題が解ける。	複素平面、正則関数、コーシー・リーマンの関係式を理解できない。 教科書の基本的な問題が解けない。			
評価項目2		複素積分、コーシーの積分定理、ローラン展開、留数 等を理解する。 教科書の応用的な問題が解ける。	複素積分、コーシーの積分定理、ローラン展開、留数 等を理解する。 教科書の基本的な問題が解ける。	複素積分、コーシーの積分定理、ローラン展開、留数 等を理解できない。 教科書の基本的な問題が解けない。			
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP2							
教育方法等							
概要	【 授業の目標 】 本科で学んできた基礎数学、微分積分学等の知識をもとに、複素関数の正則性、積分の性質を中心に学ぶ。実数関数の微分と複素関数の微分の違いを理解し、複素積分の性質を習得できることを目標とする。						
授業の進め方と授業内容・方法	授業は2時間連続で週1回行われる。講義の進め方は教員が基本事項の説明を行い、随時、教科書や問題集の問題を解いていく。教員の説明に集中し、黒板に板書されたものをノートにまとめてほしい。時間の許す限り実際に問題を解いて運用能力を養うことに重点を置く。						
注意点	微分積分学の基本は理解していることを前提に授業を進める。教科書に沿って進めるので予習を行うこと。授業中にも演習の時間をとるが、それ以外にも自ら色々な問題を解くことが必要である。疑問点はすぐに質問またはオフィスアワーを活用してほしい。						
授業計画							
		週	授業内容・方法	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	複素数と複素平面、ド・モアブルの定理	基本事項を理解する			
		2週	複素平面上の点集合、複素平面と無限遠点	基本事項を理解する			
		3週	一次関数、連続関数、正則関数	基本事項を理解する			
		4週	正則関数	基本事項を理解する			
		5週	初等関数 (1)	基本事項を理解する			
		6週	初等関数 (2)	基本事項を理解する			
		7週	まとめと演習	基本問題が解ける			
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	複素積分	基本事項を理解する			
		10週	コーシーの積分定理、コーシーの積分表示	基本事項を理解する			
		11週	関数項級数と一様収束、ベキ級数	基本事項を理解する			
		12週	テイラー展開、零点、一致の定理	基本事項を理解する			
		13週	ローラン展開	基本事項を理解する			
		14週	留数、実定積分の計算	基本事項を理解する			
		15週	期末試験				
		16週	期末試験の答案返却とまとめ				
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	10	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	90	10	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	最適化手法(5240)
科目基礎情報					
科目番号	0095	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専2		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	工学のための最適化手法入門; 天谷賢治 (著)、数理工学社 (2014)、配布資料等				
担当教員	郭 福会				
目的・到達目標					
各専門分野で「最適化」問題に遭遇したとき、数学モデルとしてとらえることができ、どの解法・手法が妥当か判断できること。条件なし、等式条件、不等式条件ときの関数の極値及び凡関数の停留曲線を求めることができる。三分割法、黄金分割法、放物線補間法、Brent法、シンプレックス法、最急降下法、ニュートン法、共役勾配法、ペナルティー法、動的計画法を理解し問題を解くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	最適化問題の数学モデルを正しく構築することができる。	最適化問題の数学モデルを構築することができる。	最適化問題の数学モデルを構築することができない。		
評価項目2	条件なし、等式条件、不等式条件ときの関数の極値及び凡関数の停留曲線を正しく求めることができる。	条件なし、等式条件、不等式条件ときの関数の極値及び凡関数の停留曲線を求めることができる。	条件なし、等式条件、不等式条件ときの関数の極値及び凡関数の停留曲線を求めることができない。		
評価項目3	三分割法、黄金分割法、放物線補間法、Brent法、シンプレックス法、最急降下法、ニュートン法、共役勾配法、ペナルティー法、動的計画法を理解し三分割法、黄金分割法、放物線補間法、Brent法、シンプレックス法、最急降下法、ニュートン法、共役勾配法、ペナルティー法、動的計画法を理解し問題を解くことができる。	三分割法、黄金分割法、放物線補間法、Brent法、シンプレックス法、最急降下法、ニュートン法、共役勾配法、ペナルティー法、動的計画法を理解し問題を解くことができる。	三分割法、黄金分割法、放物線補間法、Brent法、シンプレックス法、最急降下法、ニュートン法、共役勾配法、ペナルティー法、動的計画法を理解できない、問題も解けない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP3 学習・教育到達度目標 DP4					
教育方法等					
概要	ある制約条件の下で、目的関数を最適にする設計変数を得るための手法が最適化手法である。最適化手法は設計が必要なあらゆる分野で利用することができ、デザイン力を養う目標もあるため、全専攻に共通な科目となっている。最適化手法の入門として、数学的な準備をもとに、線形計画法と非線形計画法の基本的な問題をとりあげ、理論より手法（表計算ソフトやそのソルバー機能を活用する）を中心に体験し応用能力を身につける。				
授業の進め方と授業内容・方法	基本的なことを説明したあと、簡単な例題によって各最適化手法を実行し最適解を得ることによって理解を深めるやりかたで授業を進める。授業では、パソコンで表計算ソフトやフリーソフト（GNU Octave など）によるデモンストレーション等を行うので、各専門の数値計算に役立てられるようにする。				
注意点	講義の時間の半分が解説・説明で、残りの時間は実際のパソコンなどによる手法の計算演習となる。また、数学的素養が必要とされるので、特に微分積分の基礎は十分に復習してほしい。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション-最適化問題とは	最適化問題へ理解および説明することができる。	
		2週	数学的基本事項	行列固有値・関数の勾配ベクトルとヘッセ行列を求めることができる。正定値、非負定値行列の判断ができる。	
		3週	極値問題（条件なし、等式条件）	条件なし、等式条件ときの関数の極値を求めることができる。	
		4週	極値問題（不等式条件）	不等式条件ときの関数の極値を求めることができる。	
		5週	古典変分法	凡関数の停留曲線を求めることができる。	
		6週	1次元最適化問題（三分割法、黄金分割法）	三分割法と黄金分割法を理解し応用できる。	
		7週	1次元最適化問題（放物線補間法、Brent法）	放物線補間法とBrent法を理解し応用できる。	
		8週	中間試験	今まで勉強した手法を理解し、問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	線形計画問題（標準形とシンプレックス法）	標準形とシンプレックス法を理解し応用できる。	
		10週	線形計画問題（2段階法、パソコンによる演習）	2段階シンプレックス法を理解し応用できる。	
		11週	非線形最適化問題（最急降下法、ニュートン法）	最急降下法、ニュートン法を理解し応用できる。	
		12週	非線形最適化問題（共役勾配法）	共役勾配法を理解し応用できる。	
		13週	制約条件つき最適化問題（ペナルティー法）	ペナルティー法を理解し応用できる。	
		14週	動的計画法	動的計画法を理解し応用できる。	
		15週	期末試験	9週目から勉強した手法を理解し問題を解くことができる。	
		16週			
評価割合					
		試験80%	課題20%	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	
専門的能力		0	0	0	

分野横断的能力	0	0	0
---------	---	---	---

八戸工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	材料化学(5241)
科目基礎情報				
科目番号	0097	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専2	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	入門無機材料/塩川二郎著/化学同人/2001、しくみ図解シリーズ金属材料が一番わかる/三木貴博監修/技術評論社/2014			
担当教員	長谷川 章, 新井 宏忠			

目的・到達目標

1. 結晶の対称性やブラベ格子などが理解されていること。さらに、さまざまな機能性発現について説明が出来ること。
2. 金属材料の一般的性質とその原理を説明できること。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
材料の機能性発現	磁性材料や発光材料について、機能性発現のメカニズムを説明できる。	教科書等の参考情報により、磁性材料や発光材料の機能性発現のメカニズムを説明できる。	教科書等の参考情報を参照しても磁性材料や発光材料の機能性発現について説明できない。
材料の合成技術	薄膜や微粒子材料の合成技術について説明できる。	教科書等の参照情報により、薄膜や微粒子材料の合成技術について説明できる。	教科書等の参照情報を参照しても、薄膜や微粒子材料の合成技術について説明できない。
金属材料の結晶構造	金属結晶構造の原子配置を説明でき、充填率、配位数等の計算ができる。	教科書等の参考情報により、金属結晶構造の原子配置を説明でき、充填率、配位数等の計算ができる。	教科書等の参考情報を参照しても、金属結晶構造の原子配置を説明でき、充填率、配位数等の計算ができない。
乾式製錬	乾式製錬の原理を自由エネルギー変化から説明できる。加えて、乾式製錬の特徴を説明できる。	教科書等の参考情報により、乾式製錬の原理を自由エネルギー変化から説明できる。加えて、乾式製錬の特徴を説明できる。	教科書等の参考情報を参照しても、乾式製錬の原理を自由エネルギー変化から説明できない。
湿式製錬	湿式製錬の原理を酸化・還元反応、酸・塩基反応を用いて説明できる。加えて、湿式製錬の特徴を説明できる。	教科書等の参考情報により、湿式製錬の原理を酸化・還元反応、酸・塩基反応を用いて説明できる。加えて、湿式製錬の特徴を説明できる。	教科書等の参考情報を参照しても、湿式製錬の原理を酸化・還元反応、酸・塩基反応を用いて説明できない。
電解製錬	電解製錬の原理を酸化・還元反応(アノード・カソード反応)、を用いて説明できる。加えて、電解製錬の特徴を説明できる。	教科書等の参考情報により、電解製錬の原理を酸化・還元反応(アノード・カソード反応)、を用いて説明できる。加えて、電解製錬の特徴を説明できる。	教科書等の参考情報を参照しても、電解製錬の原理を酸化・還元反応(アノード・カソード反応)、を用いて説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 DP3

教育方法等

概要	「材料」の発展は最近特に著しく、化学、電気・電子工学、機械工学、土木工学等あらゆる分野に新素材を提供している。この講義では、固体材料の結晶構造と材料などの特性について学ぶと共に、今日の工業技術の中でも中心的な役割を担っている磁気材料や発光材料、金属材料などの各論について講義する。
授業の進め方と授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 固体の結晶構造についてX線結晶学の基礎を交えながら講義を行う。また、固体材料の中でも多用されている磁性体および超伝導材料の特性や無機材料の合成技術について学ぶ。 2. 金属全般の一般的性質(強度・物性など)や加工方法と代表的な金属素材の特徴について学ぶ。(補充試験の場合は、試験の点数のみで合格となる。) <p>○評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験80%、小テスト、レポートを20%として評価を行う。 ・答案およびレポートは採点后返却し、達成度を伝達する。 ・総合評価は100点満点として、60点以上を合格とする。
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本科で学習した化学や物理の知識が基礎になるので、必要に応じて復習および補強しなければならない。 2. 各自の専門分野と関連つけて考察することが必要。 3. 一般的な「材料」の重要性に対する関心を常に持ち、認識を深めること。 <p>・自学自習は試験にて評価する。</p>

授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	結晶構造	
		2週	磁性材料	
		3週	超伝導材料	
		4週	無機発光材料	
		5週	セメント	
		6週	無機材料合成技術(薄膜)	
		7週	無機材料合成技術に関する演習	
		8週	金属材料の基礎	
	2ndQ	9週	鉄の歴史	
		10週	鉄・鉄鋼の製造(乾式製錬)	
		11週	鉄・鉄鋼の加工技術	
		12週	非鉄金属に関する概説	
		13週	新機能材料に関する概説	
		14週	総括・期末到達度試験	

	15週	期末到達度試験の答案返却とまとめ	
	16週		
評価割合			
	試験	小テスト・レポート	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	物性物理学(5901)
科目基礎情報					
科目番号	0098		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	固体物理の基礎 (上・1) アシクロフト・マーミン著				
担当教員	中村 美道				
目的・到達目標					
1. 金属の自由電子論を理解する。 2. 量子力学を使った定式化ができ、導かれる性質を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 金属の自由電子論の理解	古典的扱いと量子論的扱いを理解できている。	電子気体の基底状態の性質を理解している。	電子気体の基底状態の性質が理解できていない。		
評価項目2 結晶構造の表現方法の理解。	結晶構造(結晶面、結晶軸)の数学的な表現方法を理解できていること。	各種結晶構造の幾何学的な特徴を理解し、そのイメージを頭の中で描くことができること。	各種結晶構造の幾何学的な特徴を理解できていない。		
評価項目3 周期ポテンシャル中の電子状態の理解。	一般的定式化、および導かれる一般的な性質を理解している。	独立電子近似を理解している。	独立電子近似を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP3					
教育方法等					
概要	原著 (SOLID STATE PHYSICS, Ashcroft/Mermin) を4分割した日本語訳の先頭巻(上・1巻)を中心に授業を行います。 固体物理の基本的な理論体系をしっかり理解します。				
授業の進め方と授業内容・方法	使用する教科書(固体物理の基礎 上・1)は原著の4分割の先頭部分に相当します。金属の理論、自由電子モデルの破綻、結晶格子(逆格子、X線回折による結晶構造決定)、周期ポテンシャル中の電子状態等を学びます。セミナー形式の発表・報告を取り入れつつ、授業を進めます。				
注意点	基本的な理論体系を理解するためには「数学力」はもちろんですが「読解力」も大切です。教科書は英語原著の日本語訳ですが、理解や解釈が曖昧になりそうな箇所があれば、原著の対応する部分の英文を直接読み込むことがあります。				
授業計画					
	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、固体物理学入門	各自の専攻と物性物理のつながりを探す。	
		2週	金属のDrude理論	モデルの基礎仮定を理解する。	
		3週	電子気体の基底状態の性質	量子化条件を理解する。	
		4週	自由電子気体の熱的性質	フェルミディラック分布、フェルミエネルギーを理解する。	
		5週	金属のゾンマーフェルト理論	古典速度分布をフェルミディラック分布で置き換え検討する。	
		6週	自由電子モデルの破綻	ゾンマーフェルト自由電子モデルと実験の矛盾点を把握する。	
		7週	結晶格子	ブラベー格子、基本単位格子、単位構造のある格子を理解する。	
		8週	逆格子	逆格子の定義、ブリルアンゾーン、格子面のミラー指数を理解する。	
	4thQ	9週	X線回折による結晶構造の決定	固体の微視的構造がX線回折でどのように決定されるか理解する。	
		10週	演習	前週までの重要なポイントを演習により確認する。	
		11週	周期ポテンシャルとブロッホの定理	ブロッホの定理について、第一の証明、第二の証明ができる。	
		12週	状態密度	1電子の物理量を電子状態について重みをつけて計算できる。	
		13週	弱い周期ポテンシャルの中の電子	ポテンシャルが弱い場合のシュレーディンガー方程式に対する一般的近似を理解する。	
		14週	エネルギーバンド	エネルギーギャップが電子の輸送現象において重要となる由来を理解する。	
		15週	期末試験		
		16週			
評価割合					
	試験	課題	合計		
総合評価割合	80	20	100		
基礎的能力	0	0	0		
専門的能力	80	20	100		
分野横断的能力	0	0	0		

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	技術者倫理(5210)
科目基礎情報					
科目番号	0099	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	1		
教科書/教材	技術者の倫理——循環型社会に向けた技術者の責務と責任/熊谷浩二・高橋康造編/技術堂出版 プリントを配布するとともに、ビデオ等を用いる。				
担当教員	平川 武彦,矢口 淳一,佐々木 有,関 秀廣				
目的・到達目標					
[関・矢口] 技術者倫理においては、多数の解決策があることを理解・認識し、自分および他人の解決策に対しての見解を持ち選択できる」ための知識の習得(50%)、および事例討議やレポート等で自分の意見を複数表現できること (50%) について達成度を評価する。 [佐々木・平川] それぞれのテーマについて自分の意見に基づいたレポートを作成し、それを基にプレゼンテーション、他の学生とお互いに批判・討議できること					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 生命倫理についてのケーススタディ	各ケーススタディについて自己の考えをまとめ、討議に参加できること	各ケーススタディについて自己の考えをまとめることができること	各ケーススタディについて自己の考えをまとめることができないこと		
評価項目2 公害や環境問題、技術者倫理のケーススタディについて	事例討議やレポート等で自分の意見を複数表現できる。	事例討議やレポート等で自分の意見を表現できる。	事例討議やレポート等で自分の意見を表現できない。		
評価項目3 技術者倫理の基本的知識の理解、技能、態度の習得	技術者倫理の社会的背景や重要性、基本的事項(説明責任、内部告発、製造物責任、リスク管理や運用)や環境問題、知的財産等を理解し、地域社会や各国などの活動において、文化や慣習、法令を守りながら活動するための事例の分析を行える	技術者倫理の社会的背景や重要性、基本的事項(説明責任、内部告発、製造物責任、リスク管理や運用)や環境問題、知的財産等を理解し、地域社会や各国などの活動において、文化や慣習、法令を守りながら活動するための事例の評価を行える	技術者倫理の社会的背景や重要性、基本的事項(説明責任、内部告発、製造物責任、リスク管理や運用)や環境問題、知的財産等を理解し、地域社会や各国などの活動において、文化や慣習、法令を守りながら活動するための事例の説明を行えない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 DP2 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	[関・矢口・平川] 技術者は、単に便利で品質のよいものを提供し、人々の生活の便益に貢献するだけでは、社会的な責任を果たしたことはない。倫理学の一部に位置する技術者倫理は、「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解」の知識・能力を体得することを目指し、「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」についても触れる。この科目は、これまでの個々の講義でも触れている内容ではあるが、集中化してより効率的な学習教育を目指していく。さらに、異なる価値観を持ちながらも、議論により共通の課題の解決のための手法を身につける端緒としたい。 [佐々木] 生命科学の発展による遺伝子組み替え技術やクローン技術を応用した動植物による食物増産、生殖医療、難病治療など、人類は様々な分野で恩恵を受けている。この傾向は今後も拡大すると考えられるが、生命工学は生命の根本システムを操作するものであるため、新たな技術の展開と実用化には生命倫理、安全性など、国民的な幅広いコンセンサスが必要である。ここでは「生命とは何か?」を考え、いかに「生命の尊厳」を尊重しつつ研究者、技術者として生物を扱うことができるかについて考えたい。				
授業の進め方と授業内容・方法	[関・矢口・平川] 特定の価値観を教え込むのではなく、専門職として物事の選択や判断する個々の基準を形成してもらうように考えて講義する。また、国内外あるいは地域による考え方や文化の違いを紹介する。この科目は、初めて遭遇した事象について、複数の選択肢を考える能力やその中から判断理由を明確にして選び、それを説明する能力を身に付けるものである。このため、各授業は、講義とともにレポートや討議により理解度を把握しながら進める。 [佐々木] 生命倫理が絡むケーススタディを通じて、生命倫理を考え、技術者として必要な倫理的側面を討議していく。授業はすべて教員と学生、学生同士の討議によって進めていく。				
注意点	[関・矢口・平川] 毎回、授業時間中にレポート作成を行い、次回にいくつかのレポートをもとに討議する。 [佐々木] 授業はすべて教員と学生、学生同士の討議によって進めていくので、事前に与えられたテーマについて、自分の考えをまとめてレポートを作成しておくこと。その内容を基にお互いに批判・討議することと、人の意見を尊重していくことが重要である。				
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
		1週	生命倫理について	生殖医療などで、生命倫理と法の間大きな解離があることが理解できる	
		2週	遺伝子工学と倫理のケーススタディ-1(求む ノーベル賞受賞者の精子 etc)	与えられたケーススタディについて、自己の考えをまとめ、討議できること	
		3週	同上 2 (凍結受精卵は誰のもの? 私は誰の子? etc)	与えられたケーススタディについて、自己の考えをまとめ、討議できること	
		4週	同上 3 (私の胎児は私が使う、私の臓器を売って何が悪い etc)	与えられたケーススタディについて、自己の考えをまとめ、討議できること	
		5週	生命操作はどこまで許されるか(討論)	与えられたケーススタディについて、自己の考えをまとめ、討議できること	
		6週	公害と技術者1、事例「水俣病」	水俣病について、それぞれの立場で発生原因、解決策を考える。	
		7週	公害と技術者2、事例「水俣病」	水俣病について、それぞれの立場で自己の考えをレポートにまとめる。	
	8週	「何故、技術者は特別な責任を負うのか?」	技術者が高い倫理性と社会に関して特別な責任を負うことを理解して説明できる		
	4thQ	9週	技術者の定義・役割の変遷、事例「東京電力福島第一原子力発電所の事故」	技術者の定義や役割の変遷、事例について理解して説明できる	
10週	倫理と職業倫理・技術者倫理、国内外の倫理規定	技術士や専門学会の倫理規定と技術者の職業的な特質をよく理解して説明ができる			

	11週	技術と社会の関係について	科学技術の発展と社会との相互の関係性と影響をよく理解して説明ができる
	12週	働くことの意味と社会・技術の関係	技術者として働くことの意味と生涯設計を理解して説明ができる
	13週	社会や職場における個人と集団との関係	技術者として活動する中で、人間として自己の確立と職場などの集団における適切な行動や働きかけについて理解して説明ができる
	14週	技術の進歩発展と人間性との調和について	科学技術して可能なことや技術者としての活動が社会や環境に与えるインパクトや負荷、倫理規定との乖離が時として生じることを理解して適切な行動を図ることための基礎を理解し説明できる
	15週	「技術者倫理」で何を身につけたか（討論）	技術者倫理の授業を通して、多様な価値観や考え方があることを理解して、討論において自己の考えを適切に主張することができる
	16週		

評価割合

	課題	棟論への参加姿勢	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	環境エネルギー工学(5216)			
科目基礎情報								
科目番号	0100		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	産業システム工学専攻環境都市・建築デザインコース		対象学年	専2				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	教員作成プリント							
担当教員	中ノ 勇人, 矢口 淳一							
目的・到達目標								
1. 地球環境問題の原因と背景に関する科学的知識を把握する。 2. ライフサイクルアセスメントの概略を理解し、基本的知識を習得する。 3. 情報エントロピーと熱力学エントロピーの関係を数理的に理解できる。 4. 情報が、無益な熱から仕事を取り出す「資源」になることを理解できる。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1		地球環境問題の原因と背景に関する科学的知識を把握し説明できる。	地球環境問題の原因と背景に関する科学的知識を把握する。	地球環境問題の原因と背景に関する科学的知識を把握できていない。				
評価項目2		ライフサイクルアセスメントの概略を理解し、基本的知識を習得して説明できる。	ライフサイクルアセスメントの概略を理解し、基本的知識を習得する。	ライフサイクルアセスメントの概略を理解し、基本的知識を習得していない。				
評価項目3								
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育到達度目標 DP2								
教育方法等								
概要	環境エネルギー問題は、すべての技術者に関わる今世紀最大の課題であり、一人一人が正しい科学的知見に基づいた長期的視野をもって、持続可能な社会実現のための方策を見出してゆく必要がある。例えばエネルギー問題では、発生や消費にかかわる機器、装置の個別技術と並んでこれらをエネルギーシステムとして横断的、マクロ的に把握し取り扱うこともまた大切である。このようなグローバルな立場で環境エネルギー問題に対処できる能力の育成をめざす。							
授業の進め方と授業内容・方法	エネルギー分野では、情報処理とエネルギーの関係を数理的に理解する。①熱力学からのエネルギー効率の分析、②情報エントロピーと熱力学エントロピーの対応関係、③情報処理に必要なエネルギーと、情報を利用して熱から仕事を取り出す原理、の授業を行う。環境分野では、日本および世界における環境問題の経緯と変遷、特に地球温暖化についてその現状と今後の予測、対策について論ずる。演習課題・レポートの提出と到達度試験をそれぞれ20点、80点とし、60点以上を合格とする。定期試験の答えは採点后返却し、達成度を確認させる。							
注意点	① 数理モデルが主体になるので、エネルギーシステムの本質を捉えることに留意する。②メディアで紹介される環境エネルギーの問題に普段から関心を持つことが望ましい。また自学自習の成果は演習課題や到達度試験で評価する。							
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容・方法			週ごとの到達目標		
		1週	環境問題の変遷					
		2週	地球温暖化のメカニズムと温室効果ガス			地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。		
		3週	地球温暖化の予測			地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。		
		4週	地球温暖化の影響			地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。		
		5週	京都議定書とパリ協定			地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。		
		6週	温暖化対策			地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。		
		7週	ライフサイクルアセスメント					
	4thQ	8週	熱力学の復習 カルノー・サイクルと効率					
		9週	自由エネルギーとエントロピー					
		10週	情報理論と相互情報量					
		11週	数値演習					
		12週	情報と熱					
		13週	マックスウェルの妖怪と、情報による仕事を取り出し					
		14週	情報エントロピーと熱力学エントロピーの対応と変換操作					
		15週	期末試験の答案返却とまとめ					
16週								
評価割合								
	試験	発表	相互評価	演習課題	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	80	0	0	20	0	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	